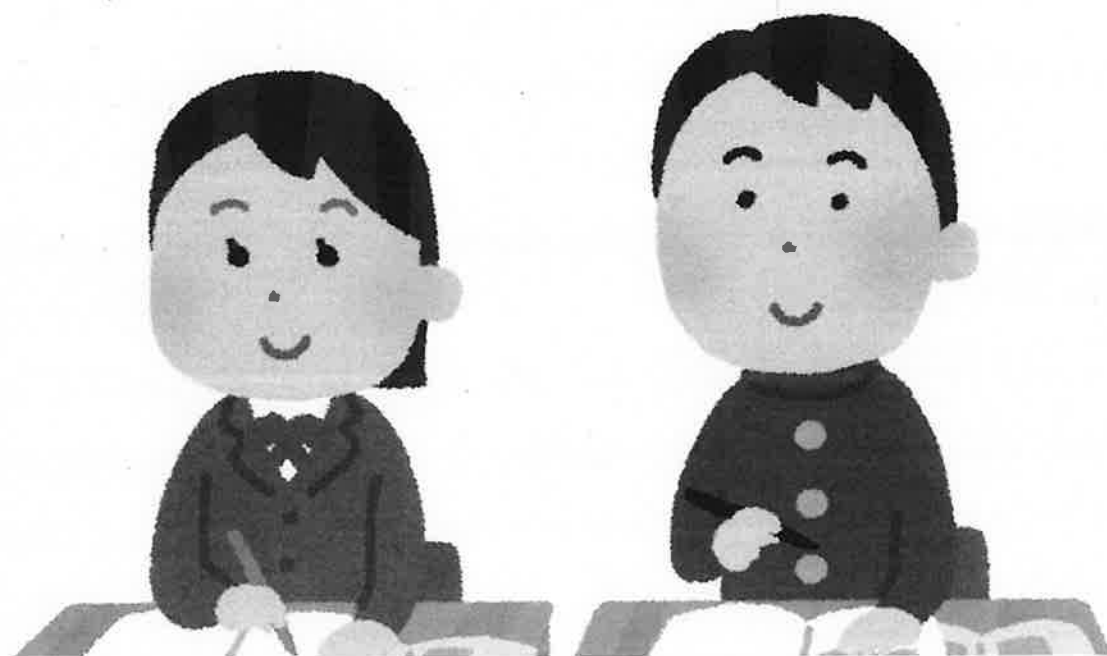


2024年度2年生
学習のとびら



亀山市立中部中学校

新しい時代を生き抜くために、あなたたちには、自分のよさや可能性を認識し、失敗を恐れずに夢や可能性に挑むためのたくさんの力が必要になります。

例えば、知識・技能、思考力・判断力・表現力等の「確かな学力」、命を大切にする心や他者への思いやり等の「豊かな心」、心身の健康や体力等の「健やかな身体」などです。

中部中学校の3年間の学習を通して、これらの力をつけ、持続可能な社会の実現と未来の自分を想定し、自己実現を目指してどう生きるかを考えてください。そのために、この「学習のとりざら」を使って日々の学習をすすめていきましょう。

学習の心構え

私たちは自分をよりよく育てるために、自分自身の心構えをしっかりと持ちましょう。「学習のポイント10」は、その鍵となるものですから、これらのことに気をつけて生活してみてください。

「学習のポイント10」

①身体状況を完璧に！

規則正しい睡眠と毎日の朝ごはんを大切に生活しましょう。

「早寝早起き朝ごはん」は、心身の健康や確かな学力につながります。

②計画をたてて進んで学習を！

主体的に計画し、進んで学習する習慣を身につけましょう。

③粘り強く、自らの学習の調整を！

知識や技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力を身に付けたりすることを目指して、自ら学びを調整しながら、粘り強く学びましょう。

④授業を大切に！

「めあて」をもって学び、「ふり返し」を大切にしましょう。

一つひとつの授業に全力を出し、集中して取り組みましょう。



⑤復習と予習を！

その日に学習したことはその日のうちに復習を。予習も必要があればしましょう。

⑥かたよらない学習を！

得意な教科をいっそう伸ばし、不得意な教科は人一倍努力しましょう。

自分にあった学習法を工夫し、みつけだしましょう。

⑦学びを深めよう!

疑問や課題に思ったことは、どんどん自ら調べていきましょう。

「ひと」「もの」「こと」とかかわったり、つながったりしながら、たくさんの対話や協働を通して、学びを深めていきましょう。

⑧図書館の利用を!

読書は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠かせないものです。たくさん読書をしましょう。

⑨体力づくりを!

体力は学習のもとでもあります。困難に打ち勝つ力をつくり上げましょう。

⑩たゆまぬ努力を!

粘り強く取り組み、積み重ねたことは、大きな力となります。

授業への取り組み方

授業では、各教科の基礎的なことから順序よく学習します。同じ授業は二度と繰り返されません。かけがえのない貴重な時間なのです。1時間1時間の授業に真剣勝負で臨むことが大切です。授業に真剣に取り組む、意欲的に発表しあう…そこから実力がのびてくるのです。さあ、授業に全力で臨みましょう。

1. 前日は ～準備をしっかりと～

忘れ物があつては、授業にしっかりと参加できません。宿題や授業の内容を確認し、必要なものを準備しましょう。

2. 授業中は ～心を集中して～

姿勢を正し、全神経を学習に集中します。「あとで」という考えは危険です。先生の話や友だちの発言・質問をしっかりと聞き、メモをとったり、その場で覚えたりして、問題を解決しましょう。また、作業や実技をとまなう教科は、先生の指示をよく聞き、安全に注意して活動しましょう。

3. 発言は ～積極的に～

何を（内容）、何によって（根拠）、どのように（方法）などを考え、わかりやすく話します。聞き手は相手を尊重し、要点をとらえるようにしましょう。

4. 質問は ～ためらわずに～

わかったこと、わからないことを区別することが大切です。疑問を持つことは進歩の証拠です。わからないことをそのままにしておくのは絶対に禁物です。ためらわずに質問しましょう。

5. ノートは ～手ぎわよく～

板書をそのまま写すのではなく、頭の中でよく整理しながらノートをとります。また、いつでもメモをする習慣をつけましょう。よくまちがえる所、わかりにくい所、重要な所には記号やアンダーライン・色分けを使うと、あとで復習する際に役立ちます。

授業は次の5項目を守って、真剣に受けよう

1. チャイムが鳴る前に、教室に入り、授業の準備をしよう。
2. 身のまわりを整頓し、必要な荷物は持ち帰ろう。
3. 「気をつけ、礼」で気持ちを切り換えよう。
4. 授業に集中し、積極的に取り組もう。
5. 教科係からの連絡をよく聞き、忘れ物をしないようにしよう。

中部中生徒会

（生徒会が中心になり、よりよい学校生活にしていけるために話し合って決めたものです。）

休憩時間の過ごし方

中学校での休憩時間は、小学校とはちがい、次の授業を受ける準備やからだを休めるためのものです。特に、休憩時間の終わりのチャイムは、次の授業のスタートの合図です。休憩時間内に下記の1～3のことを終え、自分の席に着き、チャイムと同時に授業が始められるように、静かに自習をしましょう。

1. 次の授業の準備をする。

- (1) 次の授業に必要な教科書、ノート、資料集などを出しておきます。
- (2) 特別教室への移動があるときは、(1)ができしだい移動します。
- (3) 体育などで更衣が必要なときは、手早く体操服に着替えて移動します。

2. からだを休める。

- (1) 休憩時間は遊ぶ時間ではありません。頭とからだを休め、気持ちをリフレッシュして次の授業に備えます。
- (2) 必要であれば、トイレに行っておきます。



3. 係としての仕事をする。

- (1) 係は、先生の指示により、授業のための準備をしたり、クラス全員に連絡を伝えます。
- (2) 係は、授業後、または午前中の休憩時間か昼休みの時間を使って、教科の先生に翌日の学習内容などを聞きに行き、帰りの会が始まるまでに、予定黒板に記入しておきます。
- (3) 係は、黒板をきれいに消しておきます。黒板消しもクリーナーできれいにおきましょう。



宿題について



宿題は授業での学習を家庭で補う必要があるときに与えられます。復習的な内容の宿題もあれば、予習的な内容のものもありますが、いずれも「最低でも、これだけはやっておかないと困る」というものが宿題として与えられるのですから、必ずやるようにしましょう。

復習について

人の頭というのは、授業を受けているときには「なるほど」と納得していても、時間がたつにつれて、だんだん「どうしてだったかなあ」と忘れていくものです。復習とは「なるほど」と納得しているうちに確実に頭の中にいれるために行う勉強です。だからこそ、「その日のうちに」やるのが大切なのです。各教科ごとに、くわしい復習のしかたについては、あとに書かれていますが、一般的な心構えは次のようなことです。

1. 学校から帰ったらすぐにやる。

これを必ず習慣にしよう。早ければ早いほど、授業の中身がはっきりと頭に残っていて、勉強時間も短くて済みます。

2. 教科書・ノート中心にする。

授業を思い出しながら、教科書やノートを読み返したり、ノートをもう一度整理したりしましょう。

3. 練習問題で確かめる。

学校で使っているワークブックやプリントなどを活用しましょう。関係ある問題をやってみて、本当に理解できているかどうか確かめましょう。また、余裕があれば、発展的な問題で力だめしをしてみましょう。わからなかったところは、早めに、質問するようにしましょう。



予習について

次の授業の準備、つまり、予習をしてから授業を受けるのと、何もしないままに授業を受けるのでは大きな違いがあります。例えば、予習をしてあれば、自分がわからないことはなにか、ということがわかりますから、それについて、なんとかこの授業でわかるようにしてやろうという意欲がわき、授業に集中できます。また、その授業を受けるうえでの基礎になる、すでに習ったことがらについて、予習で確認してあれば、自信を持って授業に臨むことができます。このように、授業を楽しく受けるためには予習を欠かすことのできないものなのです。予習のしかたについても、一般的なものを次にあげておきます。

1. 教科書に目を通す。次の授業は何をするのか知っておきましょう。

2. 自分で考え、疑問点を出す。

予習するなかで、わからない所や疑問に思った所を見つけておけば、授業のなかで、その疑問を解決してやろうという気持ちになり、より授業に集中できるようになります。また、国語の語句の意味調べや英語の本文を写すなどのちょっとした工夫をすることで、より授業がわかりやすくなるでしょう。



3. 苦手な教科には、特に力を入れる。

予習をきちんとし、自信を持って授業に臨めば、だんだん好きに、やがては得意になるでしょう。

提出物について

宿題、ノート、ワークブックなど、提出しなければならない物は、期限を守って、忘れずに提出しよう。

※ 宿題ではありませんが、各教科で日頃家庭学習として取り組んでほしいことを挙げました。
家庭学習の参考にして下さい。

定期テストについて

年間5回の定期テストを実施しています。みんなの理解を確認するためのテストです。

<テスト期間中の過ごし方>

1. 無理のない計画を立てて、勉強しよう。

時間割や範囲の発表は、テスト実施日の2週間前に行われます。発表されたら、計画を立て、どの教科も同じように勉強する必要があります。「この教科は嫌いだから、後回し。」というのではいけません。逆に、嫌いな教科ほど時間をかけて復習する必要があります。また、無理のない計画を立てるように心がけてください。時間を短かく区切りすぎて、ギュウギュウ詰めにしてしまうのはいけません。少し余裕があるほうがいいでしょう。

2. 目標をもとう。

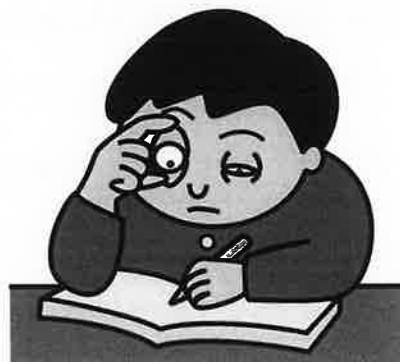
自分に合った目標を立ててみましょう。例えば、「国語は〇〇点……」というように。そうすることで「やる気」が出てくるはずです。

3. 計画を実行に移そう。

テスト期間中は、放課後の部活動が停止されます。これは小学校とは違い、各教科のテスト範囲が広く、十分な復習をしなければならないからです。テスト期間中は、友達と遊んだりせず、自宅で復習に力を入れましょう。また、計画を実行していく上で、最大の妨げになるのが「スマホ」や「ネット」なのです。テスト期間中は我慢するようにしましょう。

4. 集中して勉強し、睡眠をたっぷりと取ろう。

深夜まで勉強するのか、テスト当日、よく眠そうな顔をして登校してくる生徒を見かけます。夜遅くまで勉強することも、時には大切ですが、テスト期間中は部活動停止なのですから、帰宅後すぐに勉強に取りかかり、睡眠時間を8時間確保するようにしましょう。テストは、8:50から始まります。夜遅くまで起きていると、大切なテストの時に頭が働きません。



5. 次へつなげよう。

長かったテスト期間が終わり、ほっと一息ですね。しばらくすると、採点されたテストが返されます。返されたテストの点数がよかった、悪かっただけで済ましてはいけません。もう一度間違った箇所を中心にやり直してみましょう。そうすることが実力アップにつながります。くれぐれもやり放して終わらないようにしましょう。

<計画の例>

テスト範囲やテストの時間割は2週間前に発表されます。

		日 程		学習する教科名			予備時間
基礎整理 問題練習	2週間前	計画をこの日までに立てる。		国	英	理	
	...	ここでは、教科名のための計画ですが、各教科の内容も考えて、計画を立てましょう。		数	社	国	
	...			...	...	...	
	5日前			社	国	英	
	4日前			理	数	社	
	3日前			国	英	理	
総仕上げ	2日前	土曜、日曜を使って計画の遅れを調整する。学習時間を平日よりも多くとる。		数	社	遅れている教科	
	前日	(テスト前日)		1日目の教科の総仕上げを行う			
	第1日	国	英	理	2日目の教科の総仕上げを行う		
	第2日	数	社	(学)			

1. 「基礎整理」の期間

いきなり、テスト勉強をしようとしても無理です。まず、各教科の基本的な事項を整理しておきましょう。例えば、国語では、漢字や熟語を繰り返し覚えるためのカードを作り、授業中に書いたノートを整理しておきます。また、基本的なことがらを整理して繰り返し覚えます。つまり、「問題学習」や「総仕上げ」を行うための準備期間です。

2. 「問題練習」の期間

「基礎整理」で覚えた内容を、実際に問題を解いて確認します。問題を解いて、忘れていた事項などを、もう一度チェックしておきましょう。

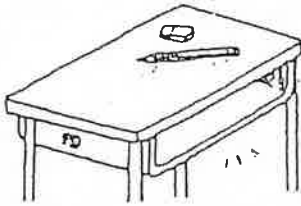
3. 「総仕上げ」の期間

今まで復習したことがらを、もう一度確認します。だいたい大丈夫ではいけません。自信をもって、テストをうけられるようにしておきましょう。

テストの受け方

次にあげる注意を守り、厳正にテストを受けよう。

机の中には何もいれてはいけません。



筆記用具のほか、不必要なものはすべて、バックにしまいなさい。

先生が問題を配り始めた時から、テストは始まっています。



まわりをキョロキョロしたり、友達と勝手な話をしたりしてはいけません。静かに問題を受け取り、枚数を確認します。

何より先に、組、番号、名前を書こう。



「始め」の合図で答えを書き始めますが、何より先に、組・番号・名前を必ず記入しましょう。それを書き忘れたら答案は0点かも……

品物の貸し借りは厳禁です。



必要なものを忘れてきても、そのまま受験するのです。あるいは、先生の指示にしたがう。

できる問題から、やり始めよう。



あわててすぐに答えを書き始めず、まず全体の問題に目を通して、できるところから始める。どうしてもわからない時には先に進みます。

見直しもテストのうち。



答えを全部書いてしまっても、よく見直しをして、間違いがないかどうか十分確かめる。この時も声を出したり、キョロキョロしてはいけません。

出席番号順に解答用紙を集める。



テスト終了のチャイムが鳴ったら、すぐエンピツを置き、列の最後の人番号順に、きちんとそろえて集めます。

休み時間は最後のまとめ。



休み時間中もあばれたり、騒いだりせず、まずトイレをすませ、次のテストの準備をして、静かに過ごしましょう。

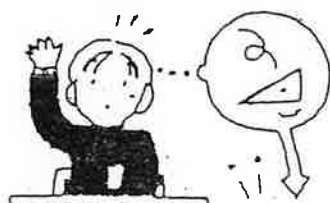
問題用紙は大切に。



答案が返される時、説明がありますから、きちんと正解を書き、大切に保存しておきましょう。

★こんな時、どうする？

何かを落としたり、必要な道具を出し忘れて、バックから出したい時。



黙って手を挙げ、監督の先生の指示を受ける。

トイレに行きたくなったり、気分が悪くなったら。



黙って手を挙げ、監督の先生にきてもらい許可を得てから静かに席を立つ。

友達の不正行為を見てしまったら。



そんなことはないと思うが、あとでそっと先生に知らせてください。

学習のすすめかた(第2学年 国語科)

☆国語の学習でめざすこと

- 1、社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- 2、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- 3、言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

☆評価の内容

評価の観点	内 容	評価の場面・方法
①知識及び技能	・社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。	テスト、書写の筆遣いやバランス、レポートの書き方、話し合い活動・討論、主張の仕方
②思考力・判断力・表現力等	・論理的に考える力や共感したり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	テスト、書写の作品、レポートの内容、発表やレポートによる話し合いや討論の内容、作品
③主体的に学習に取り組む態度	・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。	テスト、書写、レポート、話し合い活動・討論、主張等への取り組み方

☆学習を進めるにあたって

使用教材	教科書 現代の国語2(三省堂)、中学校書写一・二・三年(光村図書) 副教材 国語のワーク、漢字のワーク、文法のワーク 資料集	持ち物	教科書、国語ノート 国語のワーク 文法のワーク 漢字のワーク、資料集 習字道具、国語辞典
学習の進め方	《学校では》 ・50分の授業に集中して取り組み、人の意見をしっかり聞き、自分の意見を進んで発表しよう。 ・復習に使える、創意工夫あるノート作りをしよう。 ・学校図書館を積極的に利用するとともに、朝の読書に落ち着いて取り組もう。 《家庭では》 ・わからない漢字や語句は、こまめに国語辞典や漢和辞典で調べよう。 ・漢字のワークや漢字テストなどを活用し、漢字の読み書きを繰り返し行い、漢字を正しく使えるようにしよう。 ・新しい作品に入るときは、予習として音読をしよう。 ・本や新聞などを積極的に読もう。また、名作や新聞コラムなどを書き写してみよう。 ・ワークやノートを使ってその日の復習をしよう。 ・予定帳にその日の出来事や思ったこと、感じたことをより詳しく具体的に書こう。 《定期テストでは》 ・教科書やノートを見直しワークや漢字のワーク・漢字テストなどを利用して授業の復習をしよう。 ・テスト範囲の漢字の読み書きをしっかりと練習し、楷書で丁寧に書く習慣を身につけよう。 ・提出物があれば、必ず期限内にやって提出しよう。 ・テスト返却後、間違えたところを復習しよう。また、テスト問題は保存しておき、繰り返し復習にしよう。		
学習上の注意	・チャイムが鳴るまでに授業の準備を整えて、予習をしながら待つようにする。 ・テストなどで間違えた漢字や分からなかった漢字を正しく書けるようにする。 ・宿題は期限内に終える。特に作文の宿題は早めに終え、推敲する。 ・日常生活の中で、国語に関心を持ち、国語についての知識・技能を高められるようにする。クロスワードなどに親しむのもよい。 ・ノートを復習に使えるように、普段から丁寧に字を書くようにする。		

☆年間計画

時期	単元名	主な学習活動	評価規準
一学期	4 名づけられた葉	1 詩のリズムを感じ取りながら音読し、表現の効果について考える。 2 詩にこめられたものの見方を捉える。	思・判・表 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結びつけ、自分の考えを広げたり深めたりしている。 主 ・進んで自分の考えを広げたり深めたりし、学習課題にそって考えを伝え合おうとしている。
	セミロングホームルーム 読み方を学ぼう① 人物設定	1 作品を読んで感じたことを共有する。 2 人物の設定の仕方を捉える。 → 読み方を学ぼう① 人物設定 3 人物の言動の意味や役割について考える。 4 表現や構成の工夫とその効果について考えを深める。	思・判・表 ・「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方などを捉えている。 主 ・進んで登場人物の設定の仕方などを捉え、学習課題にそって考えを伝え合おうとしている。
	言葉発見① 敬語の意味と種類	1 「丁寧語」「尊敬語」「謙譲語」に違いを理解する。 2 「確かめよう」の課題に取り組む。	知・技 ・敬語のはたらきについて理解し、話や文章の中で使っている。(「I」力) 主 ・進んで敬語のはたらきについて理解し、学習したことを生かして課題に取り組もうとしている。
5	グループディスカッション 互いの考えを尊重しながら話し合いを深める	1 互いの立場や考えを尊重しながら話し合いを深めるための方法を理解する。 2 話し合いを深めるための方法を、グループディスカッションで活用する。 3 相手の考えと比較しながら聞き、自分の考えをまとめる。	思・判・表 ・「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめている。 主 ・積極的に互いの立場や考えを尊重しながら、学習の見通しをもって議論や討論をしようとしている。
	漢字を身につけよう①	1 中学校で学習する漢字を読む。 2 中学校で新しく学習する読みを学ぶ。	知・技 ・第1学年までに学習した漢字に加え、常用漢字(350字～450字)を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。 主 ・進んで常用漢字を読み、学習したことを生かして課題に取り組もうとしている。
6	読み方を学ぼう② 発展的な論の展開 じゃんけんは、なぜグー・チョキ・パーの三種類なのか	1 文章の構成や論理の展開の仕方を捉える。	(※「人間は他の星に住むことができるのか」と合わせて評価する。)
	人間は他の星に住むことができるのか	1 主張と例示との関係に着目して読み、内容を理解する。 2 文章の構成や論理の展開、その効果について考える。 → 読み方を学ぼう② 発展的な論の展開 3 筆者の考えを捉え、話し合っ自分の考えを深める。	思・判・表 ・「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えている。 主 ・進んで文章の構成や論理の展開について考え、学習課題にそって理解したことや考えたことを説明しようとしている。
	手紙・メール 心をこめてわかりやすく書く	1 伝える相手を決め、伝えたい事柄や気持ちを明確にする。 2 手紙の形式をふまえて下書きをする。 3 読み手の立場に立って読み返し、推敲して文章を整える。 4 丁寧に清書し、確認して投函(送信)する。	思・判・表 ・「書くこと」において、読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えている。 主 ・粘り強く表現の効果などを確かめ、学習の見通しをもって伝えたいことを相手や媒体を考慮して書こうとしている。

時期	単元名	主な学習活動	評価規準
	言葉発見② 言葉のはたらきと コミュニケーション	1 相手に何かをはたらきかけるときの表現の 仕方や配慮の示し方について考える。 2 「確かめよう」の課題に取り組む。	<u>知・技</u> ・言葉には、相手の行動を促すはたらきがあること に気づいている。 <u>主</u> ・進んで言葉のもつ相手の行動を促すはたらきに ついて気づき、学習したことを生かして課題に取り 組もうとしている。
	漢字を身につけよう②	1 中学校で学習する漢字を読む。 2 中学校で新しく学習する読みを学ぶ。	<u>知・技</u> ・第1学年までに学習した漢字に加え、常用漢字 (350字～450字)を読んでいる。また、学年別 漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章 の中で使っている。 <u>主</u> ・進んで常用漢字を読み、学習したことを生かして 課題に取り組もうとしている。
7	短歌の世界／短歌十首 読み方を学ぼう③ 想像 コラム 音の数え方と句切れ	1 短歌のリズムや表現方法などの特徴を捉 える。 2 情景や心情を表す語句に注意して、短歌に ついての理解を深める。 → 読み方を学ぼう③ 想像 3 表現の工夫や効果をふまえて考えを伝え合 い、自分の考えを広げたり深めたりする。	<u>思・判・表</u> ・「読むこと」において、文章を読んで理解したこと や考えたことを知識や経験と結びつけ、自分の考 えを広げたり深めたりしている。 <u>主</u> ・進んで知識や経験と結びつけ、学習課題にそっ て考えたことを伝え合おうとしている。
	短歌・俳句 表現の仕方を工夫して 豊かに表す	1 題材を選び、短い文章を書いて言葉を取り 出す。 2 情景や感動が伝わるように、表現を工夫す る。 3 短歌とはじめの短い文章とを比べ、推敲す る。 4 作品を読み合い、表現の工夫などについて 意見を交流する。	<u>思・判・表</u> ・「書くこと」において、表現の工夫とその効果な どについて、読み手からの助言などをふまえ、自 分の文章のよい点や改善点を見いだしている。 <u>主</u> ・粘り強く文章のよい点や改善点を見だし、学 習の見通しをもって短歌や俳句を創作しようとし ている。
	文法の窓Ⅰ 文法のまとめ 用言の活用	1 「文法の窓Ⅰ」で動詞、形容詞、形容動詞 が後ろにつく語によってどのように形を変える か考える。 2 「文法のまとめ」「Ⅰ用言の活用」で、用言 の活用について理解する。 3 「確認しようⅠ」の課題に取り組む。	<u>知・技</u> ・単語の活用について理解している。 <u>主</u> ・進んで単語の活用について理解し、学習したこ とを生かして課題に取り組もうとしている。
	壁に残された伝言	1 文章の全体と部分との関係に着目して読 み、内容を理解する。 2 文章を読んで理解したことや考えたことを 知識や経験と結びつける。 3 筆者の思いをもとに、自分の考えを広げたり 深めたりする。	<u>思・判・表</u> ・「読むこと」において、文章を読んで理解したこと や考えたことを知識や経験と結びつけ、自分の考 えを広げたり深めたりしている。 <u>主</u> ・進んで知識や経験と結びつけ、学習課題にそっ て理解したことや考えたことを説明しようとしてい る。
	私の読書体験 生涯の友と出会う	1 教材文を読み、感想を交流する。 2 本を選んで読み、自分の考えを広げたり深 めたりする。	<u>思・判・表</u> ・「読むこと」において、文章を読んで理解したこと や考えたことを知識や経験と結びつけ、自分の考 えを広げたり深めたりしている。 <u>主</u> ・進んで自分の考えを広げたり深めたりし、学習 したことを生かして本や新聞、インターネットなど から集めた情報を活用しようとしている。
	漢字を身につけよう③	1 中学校で学習する漢字を読む。 2 中学校で新しく学習する読みを学ぶ。	<u>知・技</u> ・第1学年までに学習した漢字に加え、常用漢字 (350字～450字)を読んでいる。また、学年別 漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章 の中で使っている。 <u>主</u> ・進んで常用漢字を読み、学習したことを生かして 課題に取り組もうとしている。

時期	単元名	主な学習活動	評価規準
二 学 期	9 一〇〇年後の水を守る 読み方を学ぼう④ 図表と文章	1 本文を読んで内容を捉える。 2 文章と図表を結びつけて内容を捉え、図表の効果を考える。 → 読み方を学ぼう④ 図表と文章 3 筆者の考えを捉え、話し合って自分の考えを深める。 4 文章を読んで理解したこと、知識や経験とを結びつけて、考えを広げる。	<u>思・判・表</u> ・「読むこと」において、文章と図表などを結びつけ、その関係をふまえて内容を解釈している。 <u>主</u> ・進んで文章と図表などを結びつけて内容を解釈し、学習課題にそって考えたことを文章にまとめようとしている。
	言葉発見③ 上位語・下位語	1 上位語・下位語の関係について理解を深める。 2 「確かめよう」の課題に取り組む。	<u>知・技</u> ・抽象的な概念を表す語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ <u>主</u> ・進んで抽象的な概念を表す語句の量を増し、学習したことを生かして課題に取り組もうとしている。
	プレゼンテーション 資料や機器を活用して 効果的に発表する	1 社会生活の中から題材を決め、内容を考える。 2 聞き手にわかりやすく伝えるために必要な情報を収集する。 3 資料や機器を効果的に活用して表現を工夫する。 4 相手や目的に応じた伝え方を工夫してプレゼンテーションを行う。	<u>思・判・表</u> ・「話すこと・聞くこと」において、資料や機器を用いるなどして、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。 <u>主</u> ・積極的に資料や機器を用い、学習の見通しをもって説明や提案をしようとしている。
	漢字を身につけよう④	1 中学校で学習する漢字を読む。 2 中学校で新しく学習する読みを学ぶ。	<u>知・技</u> ・第1学年までに学習した漢字に加え、常用漢字(350字～450字)を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。 <u>主</u> ・進んで常用漢字を読み、学習したことを生かして課題に取り組もうとしている。
10	枕草子・徒然草	1 本文を通読し、内容を捉える。 2 「枕草子」について、筆者のものの見方や感じ方を捉える。 3 「徒然草」について、筆者のものの見方や感じ方を捉える。 4 古人の心情を現代の自分たちとの対比の中で読み取る。	<u>思・判・表</u> ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結びつけ、自分の考えを広げたり深めたりしている。 <u>主</u> ・進んで理解したことや考えたことを知識や経験と結びつけ、学習課題にそって考えを伝え合おうとしている。
	表現ブラザ 私の「枕草子」「徒然草」	1 日常生活や社会生活の中から題材を決めて、伝えたいことを明確にする。 2 読み手の立場に立って、表現の効果を考えながら文章を整える。	<u>思・判・表</u> ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決めている。 <u>主</u> ・粘り強く伝えたいことが明確になるように工夫し、学習の見通しをもって感じたことを書こうとしている。
	平家物語 読み方を学ぼう⑤ 物語の転換点 コラム あの人の歌	1 語句の意味に注意しながら音読し、古典のリズムを味わう。 2 場面や状況を捉え、登場人物の行動や心情について考えを共有する。 → 読み方を学ぼう⑤ 物語の転換点 3 古典に表れたものの見方や考え方を捉え、自分の考えをまとめる。	<u>思・判・表</u> ・「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えている。 <u>主</u> ・進んで文章の構成や論理の展開などを捉え、学習課題にそって考えを伝え合おうとしている。
	漢詩の世界	1 漢詩の表現やリズムを捉え、読み味わう。 2 作者の状況を捉え、心情を想像する。 3 描かれた情景を捉え、表現の効果を考える。	<u>思・判・表</u> ・「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えている。 <u>主</u> ・進んで文章の構成や表現の効果について考え、学習課題にそって考えたことを伝え合っている。

時期	単元名	主な学習活動	評価規準
	漢字のしくみⅠ 熟語の構成・熟字訓	1 二字熟語の構成の型を理解する。 2 熟字訓について理解を深める。 3 「確かめよう」の課題に取り組む。	知・技 ・第1学年までに学習した漢字に加え、常用漢字(350字～450字)を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。 主 ・進んで常用漢字を読み、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、使い、学習したことを生かして課題に取り組もうとしている。
	漢字を身につけよう⑤	1 中学校で学習する漢字を読む。 2 中学校で新しく学習する読みを学ぶ。	知・技 ・第1学年までに学習した漢字に加え、常用漢字(350字～450字)を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。 主 ・進んで常用漢字を読み、学習したことを生かして課題に取り組もうとしている。
11	複数の情報を関連づけて考えをまとめる 共生社会に関するデータ 自立とは 「依存先を増やすこと」	1 資料A「共生社会に関するデータ」のグラフ3点を読み取る。 2 グラフから読み取ったことをもとに、課題について話し合う。 1 資料B「自立とは『依存先を増やすこと』」を読む。 2 筆者の考えを整理する。 1 資料Aと資料Bを関連づける。 2 課題について、自分の考えをまとめる。 1 グループで話し合っ、考えを深める。	思・判・表 ・「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめている。 ・「読むこと」において、目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、内容を解釈している。 主 ・積極的に情報と情報との関係に注意して内容を解釈し、学習の見通しをもって話し合い、考えをまとめようとしている。
	投稿文 情報を関連づけて 根拠を明確に示す	1 課題について自分の考えをまとめる。 2 構成を考えて投稿文を書く。 3 推敲する。 4 交流する。	思・判・表 ・「書くこと」において、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。 主 ・粘り強く材料を整理して伝えたいことを明確にし、学習の見通しをもって投稿文を書こうとしている。
	文法の窓 2 文法のまとめ 助詞・助動詞のはたらき	1 「文法の窓 2」で助詞・助動詞の特徴について考える。 2 「文法のまとめ」「2 助詞・助動詞のはたらき」で、助詞・助動詞のはたらきや種類について理解する。 3 「文法のまとめ」「3 文の成分の順序と照応」で、文の成分の順序や照応について理解する。 4 「文法のまとめ」「4 文の種類」で、単文、複文、重文の特徴について理解する。 5 「確認しよう 2」の課題に取り組む。	知・技 ・助詞や助動詞などのはたらき、文の成分の順序や照応など文の構成について理解するとともに、話や文章の構成や展開について理解を深めている。 主 ・進んで助詞や助動詞などのはたらきや文の構成について理解し、学習したことを生かして課題に取り組もうとしている。
	漢字を身につけよう⑥	1 中学校で学習する漢字を読む。 2 中学校で新しく学習する読みを学ぶ。	知・技 ・第1学年までに学習した漢字に加え、常用漢字(350字～450字)を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。 主 ・進んで常用漢字を読み、学習したことを生かして課題に取り組もうとしている。

時期	単元名	主な学習活動	評価規準
12	大阿蘇	1 描かれた情景を想像して音読し、眼前に展開する自然の姿を捉える。 2 詩の表現技法とその効果を理解し、想像豊かに朗読する。	<u>知・技</u> ・類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。 <u>((1)エ)</u> <u>思・判・表</u> ・「読むこと」において、文章の構成や表現の効果について考えている。 <u>主</u> ・進んで表現の効果について考え、学習課題にそって考えを伝え合おうとしている。
	言葉発見④ 類義語・対義語、多義語	1 類義語・対義語について理解する。 2 多義語について理解する。 3 「確かめよう」の課題に取り組む。	<u>知・技</u> ・類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。 <u>主</u> ・進んで類義語と多義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、学習したことを生かして課題に取り組もうとしている。
	小さな手袋 読み方を学ぼう⑥ 象徴	1 作品の設定と時間の流れを捉える。 2 登場人物の相互関係を捉える。 3 登場人物の人物像を捉え、心情について考える。 → 読み方を学ぼう⑥ 象徴 4 主人公の言動に着目し、その意図や心情を読み深める。	<u>思・判・表</u> ・「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。 <u>主</u> ・進んで登場人物の言動の意味などについて考え、学習課題にそって考えを伝え合おうとしている。
	読書活動 ビブリオバトル	1 話の構成を工夫して、紹介する内容をまとめる。 2 ビブリオバトルを行う。	<u>思・判・表</u> ・「話すこと・聞くこと」において、自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫している。 <u>主</u> ・積極的に話の構成を工夫し、学習の見通しをもって提案しようとしている。
	創作文 読みたくなるしくみを工夫する	1 創作のもとにする作品と創作コースを選ぶ。 2 作品の魅力や特徴について研究する。 3 作品の特徴や魅力が伝わるように創作する。 4 作品を発表し、意見交流をとおして考えを広げる。	<u>思・判・表</u> ・「書くこと」において、伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫している。 <u>主</u> ・粘り強く文章の構成や展開を工夫し、学習の見通しをもって感じたことや想像したことを書こうとしている。
	漢字を身につけよう⑦	1 中学校で学習する漢字を読む。 2 中学校で新しく学習する読みを学ぶ。	<u>知・技</u> ・第1学年までに学習した漢字に加え、常用漢字(350字～450字)を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。 <u>主</u> ・進んで常用漢字を読み、学習したことを生かして課題に取り組もうとしている。
三学期	動物園でできること 読み方を学ぼう⑦ 例示	1 文章全体の構成と要旨を捉える。 2 「学びの場」としての動物園の取り組みについて、本文の内容を整理する。 3 主張と例示の関係に注意して、筆者の主張を捉える。 → 読み方を学ぼう⑦ 例示 4 筆者の主張について、自分の考えを深める。	<u>思・判・表</u> ・「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係などを捉えている。 <u>主</u> ・進んで主張と例示との関係などを捉え、学習課題にそって考えを伝え合おうとしている。

時期	単元名	主な学習活動	評価規準
	漢字のしくみ 2 熟語の読み	1 熟語の読みを音と訓の組み合わせのパターンから分類的に理解する。 2 同音異義語について理解する。 3 「確かめよう」の課題に取り組む。	知・技 ・第1学年までに学習した漢字に加え、常用漢字(350字～450字)を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。 主 ・進んで常用漢字を読み、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、使い、学習したことを生かして課題に取り組もうとしている。
	論説文 構成を工夫して 考えを伝える	1 課題について、自分の考えをまとめる。 2 伝えたい事柄がわかりやすく伝わるように、文章の構成や展開を工夫する。 3 根拠の適切さや表現の効果を考えて説得力のある文章を書き、読み合う。	思・判・表 ・「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果をj考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。 主 ・粘り強く自分の考えが伝わるように工夫し、学習の見通しをもって自分の考えを書こうとしている。
	漢字を身につけよう⑧	1 中学校で学習する漢字を読む。 2 中学校で新しく学習する読みを学ぶ。	知・技 ・第1学年までに学習した漢字に加え、常用漢字(350字～450字)を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。 主 ・進んで常用漢字を読み、学習したことを生かして課題に取り組もうとしている。
2	走れメロス 読み方を学ぼう⑧ 心内語	1 人物設定と物語の展開を捉える。 2 工夫された表現に着目して、文体の特徴を捉えて読み味わう。 → 読み方を学ぼう⑧ 心内語 3 人物の言動の意味を考え、人物像とその変化を捉える。 4 登場人物の人物像について考えを深める	思・判・表 ・「読むこと」において、文章の構成や表現の効果について考えている。 主 ・進んで登場人物の表現の効果について考え、学習課題にそって考えを伝え合おうとしている。
	漢字を身につけよう⑨	1 中学校で学習する漢字を読む。 2 中学校で新しく学習する読みを学ぶ。	知・技 ・第1学年までに学習した漢字に加え、常用漢字(350字～450字)を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。 主 ・進んで常用漢字を読み、学習したことを生かして課題に取り組もうとしている。
3	情報誌 地域の魅力を振り返って	1 編集会議を開き、企画を立てる。 2 情報収集を行う。 3 レイアウトを決める。 4 記事を書き、誌面を作る。 5 発表会を開く。	思・判・表 ・「話すこと・聞くこと」において、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討している。 ・「書くこと」において、読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えている。 主 ・積極的に伝え合う内容を検討し、粘り強く表現の効果などを確かめ、学習の見通しをもって情報誌を作ろうとしている。
	歌の言葉 365日の紙飛行機	-	-

学習のすすめかた(第2学年 社会 地理&歴史)

○社会科の目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民として資質・能力の基礎を身につける。

評価の観点	内 容	評価の場面・方法
①知識・技能	・社会的事象に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。 ・我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめている。	授業観察 小テスト 定期テスト
②思考・判断・表現	・社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会的に見られる課題の解決に向けて選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。	授業観察 振り返り ノート 定期テスト
③主体的に学習に取り組む態度	・社会的事象について理解し、正しい知識を身に付けている。 ・社会的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を主体的に解決しようとしている。	授業観察 ノート 課題提出 定期テスト

☆学習をすすめるにあたって

使用教材	教科書:「新しい社会 地理」 地図帳:「中学校社会科地図」 教科書:「新しい社会 歴史」 副教材:ワーク	持ち物	・教科書 ・地図帳 ・ノート
学習の進め方	《学校では》 ・先生の話や説明等をしっかり聞こう。 ・資料(写真、地図、グラフなど)を読み取り、わかることを積極的に発表しよう。 ・課題について考え、意見交換しよう。 ・授業のふりかえりを5行以上でまとめよう。 《家庭では》 ・学校で学んだことを、自分の身近な暮らしと関連付けよう。 ・自主的に復習を行い、ワークにも取り組もう。授業で配布されたプリント等にも取り組もう。 ・世の中の動きや出来事に関心を持とう。(毎日、新聞の一面を読む、ニュースを見るなど) 《定期テストでは》 ・計画を立ててテスト勉強に取り組もう。 ・教科書にある、グラフ・図表等の資料から様々な情報を読み取ろう。 ・課題について多面的・多角的に考察しよう。 ・教科書にある語句を覚えよう。		
学習上の注意	・忘れ物をせず、授業の準備を整え、ベル席を守る。 ・課題をつかみ、解決に向け、自ら考える。自分の考えを述べ、仲間の考えを聴くことで、さらに自分の考えを深める。 ・黒板に書かれた内容はもらさずノートにとる。 ・気づいたことや大切だと思ったことも、ノートに記入する。 ・ふりかえりを5行以上書く。 ・提出物は期限を守る。		

☆年間計画

時期	単元名	おもな学習内容	評価観点
一学期	4 第4章 近世の日本	・江戸幕府の成立と対外政策	・江戸幕府の成立の経緯と大名統制について理解できる。また、身分制と農村の様子について理解できる。
	5	・産業の発達と幕府政治の動き	・鎖国などの幕府の対外政策と対外関係について理解できる。
	6		・産業や交通の発達について理解し、課題を多面的・多角的に考察することができる。
	7 第5章 開国と近代日本の歩み	・欧米における近代化の進展 ・欧米の進出と日本の開国	・幕府の政治改革に関する課題を主体的に追究、解決しようとしている。 ・近代の日本と世界について、より良い社会の実現を視野に、課題を主体的に追究しようとしている。 ・欧米諸国が近代社会を成立させて、アジアへ進出したことを理解できる。
二学期	9 第1章 身近な地域の調査 第2章 日本の地域的特色	・身近な地域の調査 ・日本の地形、気候、人口、資源・エネルギーと電力 ・日本の農業、工業、商業、サービス業、交通網・通信網	・調査に必要な資料を読み取ることができる。 ・日本の地形や気候の特色、国土の特色、自然災害と防災の取り組みなどを基に、日本の自然環境に関する特色を理解できる。
	10		・少子高齢化の課題、人口分布や過疎・過密などを基に、日本の人口に関する特色を理解できる。 ・日本の資源・エネルギーに関する課題を基に、特色を理解できる。
	11 第3章 日本の諸地域	・九州地方 ・中国・四国地方 ・近畿地方 ・中部地方	・「自然環境」「人口」「資源・エネルギーと産業」「交通・通信」について、地域の共通点や差異、分布などに着目し、多角的・多面的に考察、表現することができる。 ・日本の地域的特色と地域区分について、よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に追究しようとしている。
	12		・日本の諸地域について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 ・各地方の自然環境、人口、産業の特色や、人々の生活について理解できる。 ・各地方の地域的特色について人々の生活や産業と関連づけて考察できる。 ・地図や雨温図、さまざまな資料について適切に読み取り、特色を理解できる。 ・各地方の歴史的背景を考察し、文化の発達や地域との結び付き、その問題点を理解できる。
三学期	1 第4部 第1章 地域の在り方	・関東地方 ・東北地方 ・北海道地方 ・地域の在り方	・地域の実態や課題解決のための取り組みを理解している。 ・地域の在り方について、よりよい社会の実現を視野に、見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
	2 第5章 開国と近代日本の歩み	・明治維新 ・日清・日露戦争と近代産業	・明治新政府の諸改革や、議会政治が始まることでの生活の変化や、国際的な地位の向上を理解できる。 ・日清・日露戦争における欧米諸国の利害関係や国内の様子を基に、戦争の原因や影響などを考察できる。
	3		

学習のすすめかた(第2学年 数学科)

☆数学の学習でめざすこと

- 数学を身につけること[「基礎・基本」を習得し、「創造性」を養う。]
式の計算や数量関係の法則、図形の性質を理解し、事象を多面的・多角的に見る力や論理的に考える力を養う。
- 数学を役立てること[数学の「よさ」や「はたらき」を実感する。]
学習した内容を用いて、身の回りの事象に対して、役立てる力を養う。

☆評価の内容

評価の観点	内 容	評価の場面・方法
①知識・技能	・文字式や文字式の計算、連立方程式、一次関数、図形、確率に関する基本的な用語や性質、公式を理解している。 ・式の計算、連立方程式の解、確率を求めることができる。 ・方程式やグラフ、三角形や円の性質などを用いて、数学的に表現し適切に処理することができる。	・ノートや課題 ・計算練習などの演習の様子 ・定期試験、小テスト
②思考・判断・表現	・式の計算、一次関数、三角形や四角形などを用い、事象の中から数学的な関係や法則を見つけ、論理的に考察することができる。 ・統計資料からデータを読み取り、考察することができる。	・授業の発言内容 ・ノートや課題などの記述等 ・定期試験、小テスト
③主体的に学習に取り組む態度	・数学的な事象に関心をもって調べることができる。 ・文字や文字の式、連立方程式のよさ、一次関数についての見方や考え方を用い、進んで問題を解決していこうとすることができる。	・学習活動への取り組み状況 ・ノートや「ふり返し」などの記述内容

☆学習を進めるにあたって

使用教材	教科書 未来へひろがる数学2(啓林館) 副教材 ワークブック 確認プリント	持ち物	・教科書・ノート・ファイル ・ワークブック ・図形セット (直定規・三角定規・コンパス・分度器)
学習の進め方	《学校では》 ①50分(45分)の授業が有意義なものとなるように、積極的な姿勢でのぞもう。 ※教室は間違ってもいいところである意識を持とう。 ②わからないところは先生に聞くことにより、必ず解決しておこう。 ※間違いやわからない問題をそのままにしておかないようにしましょう。 ③問題を解けたときの喜びを感じよう。 《家庭では》 ①授業の前日までに教科書に目を通し、授業の内容を確認しよう。 ②教科書、ノートを参考に宿題をし、その日に学習したことを復習しよう。また、ワークなどで問題練習をし、授業の確認をしよう。 《定期テストでは》 ①2週間前に試験範囲の発表が行われると同時に学習計画を立て、継続的に学習に取り組む習慣を身につけよう。 ②日常からの復習を活かして、試験前には間違いやすい問題等に取り組む、確実性を身につけよう。また、応用問題にも取り組もう。		
学習上の注意	①授業中の板書を写すと同時にポイントとなることはノートに書き留める。 ②ノートは教科書以上に見やすくする。(色ペン等を利用して) ③間違えた問題は答えだけでなく、途中の思考過程もわかるように書く。 ④「話を聞くととき」と「問題を解いて友人と相談するとき」のけじめをつけて授業にのぞむ。 ⑤提出物(ワークブック、ノート)の提出期限(基準)は守る。 ⑥時間があれば積極的にワークブックや章末問題に取り組む。		

☆年間計画

時期	単元名	おもな学習内容	評価観点
一学期	4 オリエンテーション 1章 式の計算 1節 式の計算	・式の加法、減法 ・いろいろな多項式の計算 ・単項式の乗法、除法 ・文字式の利用	・単項式や多項式、次数や同類項の意味を理解している。 ・多項式や単項式の計算をすることができる。 ・数の性質などが成り立つことを、数量及び数量の関係を捉え、文字式を使って説明できる。 ・文字式を使って一般的に説明することの必要性和意味を考えようとしている。 ・文字を用いた式について学んだことを生活や学習にいかそうとしている。
	5 2節 文字式の利用		
	6 2章 連立方程式 1節 連立方程式	・連立方程式とその解 ・連立方程式の解き方	・連立方程式を加減法や代入法を用いて解くことができる。 ・一元一次方程式と関連づけて、連立方程式を解く方法を考察し表現することができる。 ・連立方程式について学んだことを生活や学習にいかそうとしている。
	7 2節 連立方程式の利用	・連立方程式の利用	
	3章 一次関数 1節 一次関数とグラフ 2節 一次関数と方程式	・一次関数 ・一次関数の値の変化 ・一次関数のグラフ ・一次関数の式を求めること ・方程式とグラフ	・一次関数の関係を式に表すことができる。 ・一次関数の変化の割合の特徴を理解している。 ・一次関数のグラフの特徴を、表や式、変化の割合と関連づけて考察し表現することができる。 ・連立二元一次方程式の解の意味について、一次関数と二元一次方程式のグラフとの関係を考察し表現することができる。
二学期	9 3節 一次関数の利用	・連立方程式とグラフ ・一次関数の利用	・一次関数の式を与えられた条件から求める方法を、表、式、グラフを相互に関連づけるなどして考えようとしている。 ・一次関数について学んだことを生活や学習にいかそうとしている。
	10 4章 図形の調べ方 1節 平行と合同 2節 証明	・角と平行線 ・多角形の角 ・三角形の合同 ・証明とそのしくみ ・証明の進め方	・対頂角、同位角、錯角の意味を理解している。 ・合同な図形の性質や、三角形の合同条件の意味を理解している。 ・多角形の内角の和や外角の和などを予想し、それが正しいことを考察し表現することができる。 ・図形の性質などを証明することの必要性和意味を考えようとしている。
	11 5章 図形の性質と証明 1節 三角形 2節 四角形	・二等辺三角形 ・直角三角形の合同 ・平行四辺形の性質	・二等辺三角形の性質を理解している。 ・直角三角形の合同条件の必要性和意味を理解している。 ・平行四辺形の性質を理解している。
	12		
三学期	1 6章 場合の数と確率 1節 場合の数と確率	・平行四辺形になるための条件 ・いろいろな四角形 ・平行線と面積 ・四角形の性質の利用 ・確率の求め方 ・いろいろな確率 ・確率の利用	・平行四辺形になるための条件などをもとにして、図形の性質を証明することができる。 ・四角形の性質について学んだことを生活や学習にいかそうとしている。 ・樹形図や二次元の表などを利用して、起こり得るすべての場合を求め、同様に確からしいことをもとにして、いろいろな場合について確率を求めることができる。 ・確率について学んだことを生活や学習にいかそうとしている。
	2 7章 箱ひげ図とデータの活用 1節 箱ひげ図	・箱ひげ図 ・データを活用して、問題を解決しよう	・箱ひげ図や四分位範囲を用いてデータの分布の特徴や傾向を比較して読み取り、表現することができる。 ・箱ひげ図や四分位範囲について学んだことを生活や学習にいかそうとしている。
	3 一年間のまとめ		

学習のすすめかた（第2学年 理科）

☆理科の学習でめざすこと

理科の学習では、生活に必要な知識や実験器具の使い方を覚えながら、科学的なものの見方や考え方を身につけることを目的としています。そして、疑問に感じることを、学級の友人と協力しながら解決していく活動を通して、自然のすばらしさを発見し、自然と人間の関わりについて考えていくこともねらいとしています。

☆評価の内容

評価の観点	内 容	評価の場面・方法
① 知識・技能	化学変化と原子・分子、生物の体のつくりとはたらき、地球の大気と天気の変化、電流とその利用に関することからの基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	・実験観察レポート ・定期テスト、実技テスト、小テスト ・実験の様子
② 思考・判断・表現	化学変化と原子・分子、生物の体のつくりとはたらき、地球の大気と天気の変化、電流とその利用についての観察や実験などを通して、いろいろな共通点や相違点を見いだすとともに、科学的に探究している。	・実験観察レポートや課題等の記述、発言内容等 ・定期テスト、小テスト
③ 主体的に学習に取り組む態度	化学変化と原子・分子、生物の体のつくりとはたらき、地球の大気と天気の変化、電流とその利用に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもち振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	・学習活動への取り組み状況 ・レポート ・ワークシートやノートの記述内容

☆学習を進めるにあたって

使用教材	教科書 未来へひろがるサイエンス（啓林館） 副教材 ワーク、プリント、理科便覧	持ち物	教科書 ノート 理科便覧
学習の進め方	《学校では》 ・先生の話や説明をしっかりと聞き、疑問はその場で解決しよう。 ・パソコンやビデオの映像、資料をよく見よう。 ・観察や実験には積極的に参加しよう。 ・自分自身の考えをもとう。（「なぜ」「どうして」と考えよう） ・ノートをきちんとまとめていこう。 《家庭では》 ※ わからない問題は次の日、学校で先生に聞こう。 ・ノートの整理をしておこう。プリントを貼ったり説明を書き込んだりしよう。 ・教科書やノートを読んで復習しよう。 ・習ったところまでワークをやり、繰り返し確認しよう。 《定期テストでは》 ・早めに学習計画を立てよう。 ・観察や実験の結果やまとめの確認をしよう。 ・プリントやワークなどの練習問題の見直しをしよう。		
学習上の注意	・理科室へは休み時間中に移動する。 ・チャイムが鳴るまでに授業の準備を終え、着席して待つ。 ・授業で配られたプリントはノートに貼って、見やすいノートづくりをする。 ・実験・観察（準備から片づけまで）には全員で協力して取り組む。 ・提出物の提出期限を守る。		

☆年間計画

時期	単元名	おもな学習内容	評価観点
一学期	4 化学変化と原子・分子 1章 物質の成り立ち 2章 物質の表し方	- 身の回りの物質を分解する実験を行い、分解して生成した物質からもとの物質の成分が推定できることを見出す。 - 化学式・化学反応式によって、物質の組成や化学変化を表すことができるようになる。	①化学変化で結びつく物質どうしの質量の比が一定になっていることなど、実験を通して得た結果から、物質について、理論を理解している。 ②実験結果を分析・解釈し、化学変化における物質の質量の関係を見出し、相手にわかりやすく表現している。
	5 3章 さまざまな化学変化	2種類の物質が反応して結びつく実験を行い、反応前とは異なる物質が生成することを見出し、さまざまな化学変化を原子・分子のモデルを用いて説明できるようにする。	③実験計画をもとに実験を行い、粘り強く課題を解決しようとしている。
	6 4章 化学変化と物質の質量	化学変化の前後では物質の質量の総和が等しいこと、および反応する物質の質量の間には一定の関係があることを理解する。	
	生物の体のつくりとはたらき 1章 生物の体をつくるもの 2章 植物の体のつくりとはたらき	- 生物の組織などの観察を行い、生物の体が細胞からできていること、および植物と動物の細胞のつくりの特徴を見出して理解する。 - 植物の葉や茎についての観察を行い、それらのつくりと光合成、呼吸、蒸散のはたらきに関する実験結果とを関連付けて理解する。	①生物の体の成り立ちを理解し、用語を使って説明できる力を身に付けている。 ②体のつくりやはたらき、意義などを相手にわかりやすく表現している。
	9 3章 動物の体のつくりとはたらき	消化や呼吸、血液の循環についての観察、実験を行い、動物の体が必要な物質を取り入れ運搬しているしくみを観察・実験の結果と関連付けて理解する。	③動物が必要としている活動に関する現象に進んで関わり、見通しを持った振り返りをするなど、科学的に探究しようとしている。
	10 4章 動物の行動のしくみ	動物が外界の刺激に適切に反応している様子の観察を行い、そのしくみを感覚器官、神経および運動器官のつくりと関連付けて理解する。	
	11 電流とその利用 1章 電流の性質 2章 電流の正体 12 3章 電流と磁界	- 回路の基本的な性質や、電圧と電流の関係について規則性を見出させるとともに、実験機器の操作や実験結果の処理についての技能を習得する。 - 日常生活と関連付けながら静電気の性質について調べ、静電気と電流には関係があることを見出し、真空放電の実験から、電流の正体について理解する。 - 日常生活と関連付けながら、電流の磁気作用や電流と磁界との相互作用を理解させ、直流と交流の違いをとらえる。	①電流の性質などを理解し、観察・実験の基本的な技能を身につけている。 ②電子の流れと電流の関係を見出すことができる。また、モデル図で表現している。 ③電流に関する事物・現象に進んで関わり、図に表すことができる。またグラフや実験結果から、大きさの違いを見出そうとしている。
三学期	1 地球の大気と天気の変化 1章 地球をとり巻く大気のように	- 地表にあるもののすべてに大気圧がはたらいていることを理解させ、身のまわりの大気存在を認識させる。 - 霧や雲のでき方を、空気中の水の変化と関連付けて理解する。また、地球上の水がさまざまな状態で存在し、霧、雲、雨、雪はその循環の一部であることを認識する。	①気象要素と天気の変化との関係に着目しながら、気象要素、気象観測についての基本的な概念や原理・法則などを身につけている。 ②雲や霧の発生といった身近な気象現象のしくみに興味を持ち、気象現象に関する日常経験から問題を見出したり、しくみを考えたり、表現している。
	2 2章 大気中の水の変化	気圧配置によって、大気の動きが生じることを理解する。日本付近の高気圧や低気圧の移動と、それに伴う天気の変化を、地球規模の大気の動きの一部として捉える。	③学習内容をふり振り返り、天気と気圧・気温などの関係を見出だそうとし、科学的に探究しようとしている。
	3 3章 天気の変化と大気の動き 4章 大気の動きと日本の四季	大陸と海洋の温度差によって生じる大気の動きが、日本の気象に影響を与えることを理解する。さらに、日本付近の3つの気団と関連付けながら、日本の四季の天気の特徴とそれが生じるしくみを理解する。	

学習のすすめかた（第2学年 音楽）

◇音楽の学習でめざすこと

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成することをめざす。

◇評価の内容

評価の観点	内 容	評価の場面・方法
知識・技能	○音楽表現に必要な「音楽の約束」を理解し、それらを活用することができる。 【歌唱】 ・正しい音程、正しいリズムで独唱、斉唱や合唱をすることができる。 【器楽】 ・正しい運指や奏法で、演奏をすることができる。 【創作】 ・正しいリズムでリズム打ちをしたり、正しい和音進行で旋律を作ったりすることができる。 【鑑賞】 ・楽曲を集中して聴き、楽曲の特徴を捉えることができる。 ・作曲者の生い立ちや、活躍した時代背景を考えながら鑑賞することができる。	○技能・鑑賞ワークシート ○ふり返しワークシート ○小テスト・定期テスト ○実技テスト (歌唱・器楽・創作)
思考・判断・表現	○表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて考え、表現することができる。また、それぞれの曲の背景と音楽とを関連づけて、それらを今の自分の生活と結びつけて考えることができる。 【歌唱・器楽】 ・曲想に合った声色や音色で演奏することができる。 ・音楽用語に気をつけ、曲想をつけて歌ったり演奏したりすることができる。 ・歌詞の内容や楽曲の背景などを捉えて、表現することができる。 【鑑賞】 ・楽曲の特徴を捉え、合唱や合奏などの曲においては、他の声部との関わりを感じながら、鑑賞することができる。 【創作】 ・音素材の特徴、構成上の特徴を考察し、音の選択をしながら、創作活動を行うことができる。	○技能・鑑賞ワークシート ○ふり返しワークシート ○小テスト・定期テスト ○実技テスト (歌唱・器楽)
主体的に学習に取り組む態度	○音を聴くことや奏でることに興味関心をもち、歌唱や器楽演奏などの音楽表現活動に積極的かつ意欲的に取り組むことができる。 ○学習の目的を理解し、題材における自己目標の設定をしっかりと行うことができる。また、毎時間のふり返しを通して、題材に対する自己課題を見つけることができる。	○技能・鑑賞ワークシート ○ふり返しワークシート ○表現活動の様子（観察）

◇学習を進めるにあたって

使用教材	中学生の音楽Ⅰ(教育芸術社) 中学生の器楽(教育芸術社) 鑑賞資料集 技能・鑑賞ワークシート アルトリコーダー	持ち物	中学生の音楽Ⅰ 中学生の器楽 鑑賞資料集 アルトリコーダー 音楽ファイル・筆記用具
学習の進め方	《学校での取り組み》 ①活動の時間を大切にしよう。そのためには授業に必要な準備物をきちんとそろえておこう。定期的に記名を確認し、プリント類を整理しておこう。 ②どの活動にも説明の時間と練習の時間がある。まずは説明を集中して聞こう。そうすることで、練習がスムーズに進みより良い成果が上げられるので、その時間を大切にしよう。 ③合唱や合奏などのグループ活動は、個人ひとりひとりの練習の積み上げがとても大切になる。個人練習やパート練習では、それぞれの課題を見つけ、それを目指しながら取り組もう。 ④仲間と共に音楽活動を高めよう。互いの力を出し合ったり、苦手なところを補い合ったりしながら、クラス全体で合唱・合奏を楽しもう。そのために、積極的に活動していこう。 《家庭での取り組み》 ①日々の生活の中に流れている音楽を意識しよう。鳥の鳴き声や川のせせらぎなど、自然のもたらす音にも耳を傾けよう。 ②実技には個人的な訓練の時間が必要になる。学習したことを復習して、次の授業に生かしていこう。また、地域の伝統芸能にも興味を示し、それらを伝承していこう。 《定期テストに向けて》 日々の学習のふり返りを大事にし、覚えたことを確実に自分のものにしていこう。基礎・基本の取り組み(「音楽の約束」を覚えることなど)を、日々の授業で地道に行っていこう。		
学習上の注意	・学習に必要な準備物を、忘れずそろえよう。 ・音楽表現に必要な「音楽の約束」を、しっかりと学習しよう。 ・実技においては、同じ曲を何度も繰り返し練習しよう。		

◇年間計画

時期	単元名	おもな学習内容	評価観点
一 学 期	4 混声3部合唱 「夢の世界を」 「翼をください」	・学習規律を確認する。 ・正しい姿勢とより良い発声で歌う。 ・声の響きを感じながら仲間とともに、楽しく合唱する。	・正しい姿勢を保ち、より良い発声で歌うことができる ・階名(ドレミ...)を理解し正しく読譜をすることができる
	5 心の歌 「夏の思い出」	・主旋律と他の旋律と和声の関わりを感じ取る。 ・言葉と旋律の関係を理解して表現を工夫する。	・言葉の発音の仕方を意識しながら表現しようとしている 【知識・技能】【表現】【主体的】
	6 鑑賞 「フーガ短調」	・日本歌曲の美しさを感じ取り、歌曲に親しもうとする態度を養う。 ・作曲者とその時代背景について学習する。	・歌詞の内容や、曲の構成に関心をもって、意欲的に歌うことができる。 ・歌詞の内容に関心を示し、日本歌曲の良さを味わうことができる。 ・曲の雰囲気にあった強弱の変化を感じとろうとしている。 【思考・判断・表現】【主体的】
	7 合唱コンクールに向けて	・作曲技法「フーガ形式」について学習する。	・パイプオルガンの響きに親しみ、旋律と旋律の絡み合いや、主題が様々な声部に現れることを意識しながら鑑賞することができる。
	校内合唱コンクールの取り組み開始・選曲等	・クラス合唱の選曲について考える。	・色々な合唱曲を積極的に聴き、特徴をつかもうとしている。 【思考・判断・表現】【主体的】

二 学 期	9	合唱コンクールに向けた取り組み	・より美しい響きを追求する。 ・クラスの「和」を育む合唱活動を行う。	・それぞれのパートの役割を知り、他のパートの声を聴きながら合唱をすることができる。
	10		・表現の工夫をしながら全体練習を進める。 ・パートリーダーを中心にパート活動に取り組む。	・歌詞の内容にあった強弱や速さに関心を持ち、曲にふさわしい表現方法を工夫することができる。
	11	鑑賞 「交響曲第5番ハ短調」	・作曲技法「ソナタ形式」について学習し、古典派の作品の特徴を感じ取る。	・リズム感やフレーズの流れを重視し感情を込めて合唱しようとしている【知識・技能】【表現】【主体的】
	12	鑑賞 オペラ 「アイダ」 アルトリコーダー	・西洋の音楽劇について学習する。	・古典派の音楽を鑑賞し、その当時の時代背景について考えることができる ・作曲家の生き方に触れ、鑑賞を、より深く味わうことができる。 【思考・判断・表現】
三 学 期	1	卒業式歌「さくら」 アルトリコーダー	・感情をこめて、豊かな声で歌う。	・音程やリズム、フレーズに気をつけながら、曲のイメージをしっかりとって表現できる。【知識・技能】【表現】
	2	鑑賞 「勸進帳」	・日本の伝統芸能「歌舞伎」について知り、その特徴を理解する。	・日本の伝統音楽について、関心を持ち意欲的に理解しようとしている【思考・判断・表現】
	3	合唱「島唄」	・「島唄」の楽曲について知る。	・「島唄」の各パートの旋律について理解することができる。 【知識】

学習のすすめかた（第2学年 美術）

☆美術の学習でめざすこと

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

☆評価の内容

評価の観点	内 容	評価の場面・方法
① 知識・技能	・表現するために必要なものの見方や技法、表現の意図に応じた材料や用具の生かし方などの基礎的スキルを知り、身につけている。また、その向上に努めることができる。	・作品評価 ・授業記録 ・制作過程、観察 ・ワークシート ・定期テスト
② 思考・判断・表現	・自然や身近にあるものを新鮮な見方や感覚で観察し、形や色彩の特徴などから、想像力を働かせてテーマ（主題）について構想し表現することができる。	・作品評価 ・授業記録 ・制作過程、観察 ・ワークシート ・定期テスト
③ 主体的に学習に取り組む態度	・創造活動の喜びを味わい、楽しく身近なものを見つめ感じ取ったことなどを基に構想を練ったり、意図に応じて表したりする表現の活動に粘り強く取り組もうとしている。制作の過程で、壁や課題に直面した時、自ら調整して制作の中身を臨機応変に変化させていくことができる。	・作品評価 ・授業記録 ・ワークシート ・制作過程 ・定期テスト ・振り返り

☆学習を進めるにあたって

使用教材	教科書（光村図書） 資料集、スケッチブック （彫刻、絵画、デザイン、工芸、各分野の各教材） その他	持ち物	教科書、資料集、レタリング辞典 スケッチブック 絵の具セット 筆記用具 （H、HB、2B、4Bの鉛筆）
学習の進め方	《学校では》 授業の流れ ① 制作に集中できるように、授業に必要な準備物をきちんとそろえておこう。 ② 課題を知り、説明を集中して聞こう。そして、目標をもって制作をしよう。 ③ 整理をして、清掃を含め、後片付けをしよう。 《家庭では》 ① 美術館や博物館などで本物の作品に触れる機会を増やそう。 ② 自然の美しさや人工物の美しさに出会ったら、できればスケッチなどして感動を味わおう。 ③ 授業で作った作品を飾り、学習した配色やレタリングを活用して身のまわりを楽しいものにしていこう。 《定期テスト》 ・授業で学習した内容を確認しよう。教科書、美術資料を熟読しておきましょう。		
学習上の注意	・学習内容に必要な材料など忘れ物をしないようにする。 ・その日の課題をつかみ、集中して取り組む。 ・今日の制作を振り返り後片付けと清掃をする。 ・完成することをあきらめずに、最後まで完成させる。 ・様々なことに興味や関心を持ち、それらのことを基にして制作に挑戦する意欲を持つ。また、持続させる。		

☆年間計画

時期	単 元 名	おもな学習内容	評 価 観 点
一 学 期	4 オリエンテーション 鑑賞1 「レオナルドダヴィンチのデッサン」 絵画(デッサン)	・授業の受け方や評価方法について知る。 ・ワークシートを使用し、「レオナルドダヴィンチのデッサン」を鑑賞する。 ・筆箱を描く。(細密描写) ・自分の絵画(デッサン)作品についてふりかえる。 ・鉛筆でグラデーションを表現する。	・美術の表現を積極的に行おうとする気持ちを持つ。 ・作品の良さや美しさを鑑賞し、感じたことを自分の言葉で表現することができる。 ・対象を深く見つめ、形や立体感だけではなく、筆箱の質感や存在感に迫る表現ができる。 ・形や色、質感などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴をもとに、身近なものを全体のイメージで捉えることを理解している。 ・美しい階調(トーン)を作り上げることができる。
	5		物に託した自分の思いをもとに、主題を生み出し、全体と部分との関係を考え創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。
	6 鑑賞2	・友人の作品を相互鑑賞する。	・自身の作品と取り組みについて、ワークシートを使って多角的に的確な検証をしようとしている。
	7 彫刻石彫1 構想・発想	・ラフスケッチ、エスキースを作成する ・テーマに沿ってデザインを考える。 ① 発想テーマの設定 ② 資料の収集 ③ ラフスケッチの制作。	彫刻制作の全工程について理解できる。 より多くの完成度の高い発想ができる。
二 学 期	9	④ 完成予想図の制作	完成のイメージを明確に持ち、イメージを具現化できる。 ・形や色、材料などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴をもとに、全体のイメージで捉えることを理解している。
	10 彫刻鑑賞 彫刻2 転写 彫刻制作	⑤ 設計図の制作 ミケランジェロ作 「ダビデ像」 ・デザインを転写する。 ・用具の安全な使い方を知る。	・使う人や設置する場所などを基に主題を生み出し、機能と美しさの調和を総合的に考え、表現の構想を練っている。 ・作品の良さや美しさを感じ取り、表現の意図と工夫について考え、見方や感じ方を広げている。 ・刃物や道具を安全に取り扱う態度や力を身につける。 ・美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に彫刻の効果を考え、ものづくりの表現活動に取り組もうとしている。

二 学 期	11		⑥ 転写	対になる面に誤差がないかを確認しながら転写することができる。
	12	彫刻鑑賞 ロダン「考える人」 日本明治の彫刻家 高村光雲「老衰」	⑦ 大まかに切る。(3方向から) (のこぎり引き) 彫刻作品の鑑賞を通して、作品制作の精神や技法を学ぶ。	制作作品に必要なでない部分をのこぎりでの確にカットすることができる。 制作の工夫という観点と主題をどう表現しているかを着目する。
	1	彫刻3 磨き工程	⑧ 細部の彫刻をする。 (たがねによる制作) ⑨ 仕上げる。	細部の形まで具現化できる。 各面の凹凸を的確に表現し、仕上げる ことができる。 ・粘り強く練磨をする工程を通して粘り強く完成に向けて取り組む過程を経験する。
	2		下地磨き工程 耐水ペーパー500番 耐水ペーパー1000番 耐水ペーパー2000番	耐水ペーパーの使い方を理解し、的確に使いこなすことができる。 耐水ペーパー500番では表面がつるつるになるまで根気強く磨くことができる。
	3	鑑賞 日本美術作品	鏡面磨き工程 日本手ぬぐいコンパウンド磨き 日本手ぬぐいによる仕上げ磨き	耐水ペーパー1000番～2000番では、具体的に表面に光沢が出るまで磨くことができる。 コンパウンドによる磨きでは、鏡面磨きができる。 日本手ぬぐいによる仕上げの磨きでは、表面の光沢が水で濡れているように見えるまで磨く。
		鑑賞 (建築)	東山魁夷 「道」 アントニオ・ガウディ 「サグラダ・ファミリア」	・作品の良さや美しさを感じ取り、表現の意図と工夫について考え、見方や感じ方を広げている。

学習のすすめかた（第2学年 保健体育）

☆保健体育科の目標

各種の運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わうとともに生活を明るく健全にする態度を育てる。
 運動における競争や協同の経験を通して、自ら進んで学んでいく態度や規則を守り、互いに協力して取り組む態度を育てる。
 健康・安全に留意して運動をすることができる態度を育てる。
 各種の運動を適切に行うことによって、自己の体の変化に気づき、体力の向上を図り、運動技能を高め、たくましい心身を育てる。
 健康・安全に関する理解を通して、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。

評価の観点	内 容	評価の場面・方法
①知識・技能	運動の特性や発達段階に応じた技能を身につけている。 応急処置などの実習について、基礎的な技能を身につけている。 (実施学年) 運動の特性や技術、ルールなどについて、その知識を身につけている。 保健分野の課題解決に役立つ基礎的な事項を理解し、必要な知識を身につけている。	実技・実習 発表、学習カード 定期テストなど
②思考・判断・表現	運動の特性に応じて、自己や集団の能力に適した課題を見出すことができる。 練習方法の工夫や作戦の工夫、ゲーム分析など課題に対して自らの考えを持ち、レポートや学習カードなどに表すことができる。 心身の健康や安全に関する課題の解決を目指して、科学的に考えたり、資料を活用したりすることができる。	発表、学習カードなど
③主体的に学習に取り組む態度	運動や健康・安全についての学習に積極的に取り組もうとしている。 助言や補助などをして仲間の学習や活動を援助したり、公正、協力、責任などの態度を持って活動しようとしている。 話し合いや作戦会議に積極的に参加しようとしている。 施設や道具の取り扱いに配慮し、安全で効率的な活動しようとしている。	授業への取り組み方や様子 発表や話し合い活動 提出物の状況など

☆学習をすすめるにあたって

使用教材	教科書：「中学保健体育（保健）」 副教材：「中学体育実技（図解実技資料集）」 その他：「学習カード」	持ち物	ジャージ・半そで体操服・ハーフパンツ・体育館シューズ・体育授業用ファイル
学習の進め方	<<学校では>> ○自ら進んで目標に向かって、一生懸命に取り組もう。 ○スポーツのいろいろな楽しさを学習しよう。 ○仲間と協力して活動し、ルールとマナーを守ろう。 <<家庭では>> ○スポーツ観戦をするなどして、スポーツに親しもう。 ○週3回程度を目安として、ランニングやトレーニングを30分程度行おう。 ○規則正しい生活をして、自分の健康管理をしよう。 ○体育実技（図解資料集）など技術面や体力面のポイントが掲載されているので研究しまとめてみよう。 <<定期テストでは>> ○授業で学んだことを基にして、体育実技（図解資料集）や新中学保健体育、学習カードを使って確認しておこう。		
学習上の注意	<授業について> ・チャイムが鳴り終わるまでに活動場所に移動する。 ・各自で必要な部分は念入りにストレッチングをする。 ・授業で使用する用具やコート of 準備・片づけは全員で協力して行うようにする。 ・説明をしっかりと聞き、授業の流れやポイントを一人ひとりが把握する。 ・板書を書き込みプリントにまとめたり学習したことを学習カードにまとめたりする。 ・一人ひとりが安全に十分配慮し、服装など心がけるようにする。 ・ケガと体調が優れない場合は、事前に必ず申し出るようにする。		

☆年間計画(2年生)通年で男女別で実施のため種目実施時期が前後します。

時期	単 元 名	おもな学習内容	評 価 観 点
一 学 期	4	体づくり運動 (含体力テスト)	・体力を高める運動を身につけることができる。 ・合理的に体力を高めることができる。 ・新体力テスト
	5		
	6	バレーボール ○アンダーハンドパス ○オーバーハンドパス ○スパイク ○ゲーム	・個人的技能について、正しいフォームで打つことができる。 ・ルールを工夫したり、作戦を立てたりして練習の仕方やゲームの仕方を工夫することができる。
	7	跳躍種目 (走り高跳び) ○はさみ跳び ○ベリーロール	・基本動作、正しい空間姿勢で跳ぶことができる。 ・動作のポイントを身につけ、その技能を高め、競技したり記録を高めたりすることができる。 ・助走から力強く踏み切って跳ぶことができる。
二 学 期	9	ソフトボール ○守備 ○打撃	・個人的技能について、正しいフォームで行うことができる。 ・作戦を立てたりして練習の仕方やゲームの仕方を工夫することができる。
	10	○ゲーム	
	11	跳び箱 ○切り返しわざ ○基本的な回転わざ ○やや高度な回転わざ	・自己の技能レベルに合った技ができる。 ・各自の能力に応じた技を選び、効果的に練習場を使ったり、技を工夫して練習したりすることができる。
	12	持久走 ○ペース走	・自分の能力に合ったペースを理解し、長く走ることができる。
三 学 期	1	サッカー ○インサイドキック ○インステップキック ○ゲーム	・個人的技能について、正しいフォームで蹴ることができる。 ・ルールを工夫したり、作戦を立てたりして練習の仕方やゲームの仕方を工夫することができる。
	2		
	3	ダンス ○現代的なリズムのダンス	・リズムに乗った動きで、基本となるステップや踊り方で、リズムカルにのびのびと踊ることができる。
		傷害の防止 ○応急手当の意義や方法 ○傷害の発生要因 ○薬物乱用防止	・応急手当の意義を踏まえ、基礎的な技能を身につけ日常生活の中で活用することができる。 ・薬物乱用における健康被害を学び、薬物乱用をしない態度を身につけ、自らの生活習慣の改善を図ることができる。
通 年		健康な生活と病気の予防② ○生活習慣病 ○喫煙、飲酒、薬物乱用	・健康な生活と疾病の予防について理解することができる。
		体育理論 ○運動やスポーツが心身の発達に与える効果と安全	・運動やスポーツが心身に及ぼす効果や運動やスポーツが社会性に発達に及ぼす効果を理解できる。 ・安全な運動やスポーツの行い方を理解できる。

学習のすすめかた（第2学年技術）

☆技術の学習でめざすこと

- ・「エネルギー変換、生物育成、情報」の技術の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な活動を通して、生活や社会で利用されているエネルギー変換の技術についての基礎的な知識を理解する。
- ・「エネルギー変換、生物育成、情報」に係る技能を身につけ、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。
- ・生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し解決する力、安全な社会の構築に向けて適切かつ誠実にエネルギー変換の技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を身につける。

☆評価の内容

評価の観点	内 容	評価の場面・方法
①知識・技能	・生活や社会で利用されているエネルギー変換、生物育成、情報の技術についての科学的な原理・法則や基礎的な技術の仕組み、保守点検の必要性を理解する。 ・エネルギー変換、生物育成、情報の技術と生活や社会、環境との関わりについて理解する。 ・安全・適切な製作、点検及び調整等ができる技能を身につける。	・定期テスト ・技能テスト ・レポート ・作品 ・行動観察
②思考・判断・表現	・問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身につける。 ・安全な社会の構築を目指してエネルギー変換、生物育成、情報の技術を評価し、適切に選択、管理・運用、改良、応用する力を身につけている。	・定期テスト ・レポート ・回路図 ・行動観察
③主体的に学習に取り組む態度	・課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、工夫し創造しようとする。	・レポート ・ノート ・定期テスト ・行動観察

☆学習を進めるにあたって

使用教材	教科書 技術家庭科(教育図書) 電気工作 キーボード練習ソフト Word(Microsoft) プログラム学習専用ソフト	持ち物	教科書、ノート、ハンドノート、 ファイル、情報テキスト
学習の進め方	《学校では》 ・しっかりと問題意識を持って、授業に取り組むようにしよう。 ・説明などをしっかりと聞き、実習などに真剣に取り組むようにしよう。 《家庭では》 ・エネルギー問題等に興味を持って、新聞やテレビなどをみるようにしよう。 ・問題意識を持って、パソコンなどで電気に係わることを意欲的に調べてみよう。 ・栽培に興味を持って、何かを栽培してみよう。 《定期テストでは》 ・授業で学習した基礎的なことを確認しよう。		
学習上の注意	・授業への遅刻や忘れものをしないようにする。 ・先生の指示をよく聞き、自分勝手な行動をしないようにする。 ・工具を安全かつ大切に使用し、ケガをしないように注意する。		

☆年間計画

時期	単 元 名	おもな学習内容	評 価 観 点
一 学 期	4 「エネルギー変換」 エネルギー変換に関する技術	・電気の持っている特徴について理解する。	・自分たちの直面している環境問題に関心持ち、自分にできることを考えられる。
	5 電気回路と電気機器のしくみ	・電気の利用方法について理解する。	・電気のエネルギーとしての特徴を理解している。
	6	・基本的な電気回路の特徴を理解する。	・正確に回路図を書くことができる。
	7 電気回路と電気機器のしくみ	・図記号を理解する。	・作品製作に関心を持ち、意欲的に取り組める。
	製作品の設計製作	・図記号を用いて回路図を書く。	・図記号と回路図の書き方を理解して、適切に回路図を書くことができる。
二 学 期	9 「生物育成」 生物を育てるための計画と管理	・電気製品を製作する。	・安全に適切に工具を使用できる。
	10 栽培と作物の収穫	・工具の使い方を理解する。	・工具の使い方を理解して目的に併せて適切に工具が利用できる。
	11 タイピング練習	・半田付けの方法を理解し、半田付けをし、製作品を完成する。	・作品製作に関心を持ち、意欲的に取り組める。
	12 「情報とコンピュータ」 デジタル作品の設計・制作	・電気事故の原因について理解する。	・半田付けの方法を理解し、半田付けが正しくできる。
			・電気事故の原因について理解し、安全に電気器具を使用することができる。
三 学 期	1 「情報」 計測・制御のプログラミング学習	・作物の栽培を行う。	・意欲的に作物の栽培に取り組める。
	2	・作物の特徴を理解する。	・日々の作物の成長を見守り、世話をすることができる。
	3	・栽培の基礎的なことを理解する。	・進んで情報の技術と関わり、主体的に技能を身につけようとする。
		・作物を収穫する。	・応用ソフトを意欲的、適切に活用できる。
		・タイピングソフトを使ってタッチタイピングの技術を身につける。	
		・Wordの使い方・製作手順について理解し、技術を身につける。	
		・計測、制御システムのしくみ、制御の方法、使い方を理解する。	・計測・制御システムのしくみを理解して、安全適切なプログラムを制作することができる。
		・専用ソフトウェアを使用しての計測制御プログラムを作成する。	・専用ソフトを意欲的、適切に活用できる。
			・プログラムを考える中で、試行錯誤をしながら問題を見つけ、解決することができる。

学習のすすめかた（第2学年 家庭）

☆家庭の学習でめざすこと

- ・作品の製作や、体験的な活動を通して、生活の自立に必要な衣食住に関する基礎的な知識と技術を習得する。
- ・これからの自分の生活を豊かにする力を身につける。

☆評価の内容

評価の観点	内 容	評価の場面・方法
①知識・技能	・家族・家庭の基本的な機能について理解を深め生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解している。 ・衣食住に係る技能を身に付けている。	行動観察・発表の様子 作品の完成度 定期試験 実技課題及び試験
②思考・判断・表現	・自身の衣生活から課題を見つけ、その解決策を考え、実践を評価、改善し、考察したことをレポートに表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・実習の手順や時間を考慮して、能率の良い作業を工夫することができる。	行動観察・発表の様子 実技課題・作品 レポート 振り返り記入
③主体的に取り組む態度	・衣服と社会生活との関わりについて関心を持つことができる。 ・家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。	行動観察・発表の様子 レポート 実践記録の記述 振り返り記入 授業での準備物・提出物

☆学習を進めるにあたって

使用教材	教科書：New技術・家庭 家庭分野（教育図書）	持ち物	教科書 ハンドノート ファイル 実習で必要な生活用品
学習の進め方	≪学校では≫ ・自分自身の生活や経験を振り返り、課題意識をもって授業にのぞもう。 ・発表等の中から問題点を見つけ出し、皆で解決方法を考えていこう。 ・実習では、計画を立て準備をして、見通しをもって行いましょう。 ・班で協力することも多いので、よく話し合い、実習中は、安全に気をつけ自分の役割を果たそう。 ≪家庭では≫ ・家庭での仕事を手伝おう。 ・授業の内容を思い出し、家で実際にやってみよう。 ≪定期テストでは≫ ・教科書、ノートを復習し専門的な言葉を覚え、その意味や内容を理解しておこう。		
学習上の注意	・身の回りにあるものを観察し、新聞、テレビ、インターネットなどから情報を得る。 ・身の回りに起きていることに関心をもって、疑問に思ったことは調べる。また、記事をスクラップするなど、気づいたことを書き込むようにする。 ・実習においては、目的と方法を理解し工夫して、取り組む。 ・実習においては、ケガをしないように十分注意する。 ・班員で仕事を分担し、能率よく協力して作業をする。		

☆年間計画

時期		単元名	おもな学習内容	評価観点
一 学 期	4	衣服の働きを知ろう 目的に合わせて自分らしく着よう	・衣服の働きを知る ・目的に応じた着用を考える ・和服の特徴を知る	・衣服と社会生活との関わりが分かり、衣服の基本的な機能について理解できる。 ・日本の伝統的な衣服について理解できる。
	5	衣服の計画的に活用できるようにしよう 自分に合った衣服を手に入れよう 衣服の手入れをしよう	・衣服の3Rを知る ・既製服の表示を知る ・採寸の仕方を確認する ・洗濯における洗剤の働きを知る	・衣服の計画的な活用の必要性について理解できる。 ・衣服の適切な選択について振り返って改善したり実践しようとしている。 ・衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解し適切にできる。
	6	被服実習（なまえワッペン）	・布の特徴の確認 ・デザインを考える	・製作作業について課題を持ち自分なりの工夫をし、新たな方法を考えることができる。
	7	デザインを考える		
二 学 期	9	被服実習 実技試験（手縫い）	・裁断する ・手縫いをする（なみ縫い、かがり縫い、ブランケットステッチ）	・製作する物に適した材料や縫い方について理解できる。
	10	被服実習	・アイロンの使い方の確認 ・基本的な縫い方の確認	・作品を意欲的かつ安全に能率よく製作することができる。
	11	被服実習	・裁縫基礎の実技試験 ・ボタンの付け方 ・裁縫道具の確認 ・布の性質や特徴について知る	・用具を安全に取り扱い、製作が適切にできる。
	12	住まいの働きを知ろう 家族が暮らしやすい住まい方を考えよう	・住まいの空間の使い方について交流し理解を深める ・健康を守る室内環境について知る	・住居の基本的な機能について理解できる。 ・家族の生活と住空間との関わりについて、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。
三 学 期	1	健康を守る室内環境の整え方を考えよう	・身近なバリアフリーやユニバーサルデザインを知る ・安全な住空間を考える	・室内の空気環境など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解できる。
	2	家庭内事故から家族を守ろう 実習：平面図作成	・住まい方の変化を知る ・生活行為と住まいの空間の関連性に気付く 【実習】 ・生活行為を考え、理想の住まいを平面シールを利用して製作する。	・家庭内事故など家族の安全を考えた空間について理解できる。 ・家庭内で安全に住むための室内環境や条件を考え住居設計ができる。
	3			・住まいの安全を考えて主体的に取り組もうとしている。

学習のすすめ方(第2学年 英語)

☆英語の学習でめざすこと

- 自然な速さで英語を聞き、内容を正しく理解する力を身につける。
- 基礎的な内容の英語を読み、内容を正しく理解する力を身につける。
- 身近な事柄や自分の気持ちを、場面に応じて伝える力を身につける。
- 学習した文法事項を適切に用い、自分の伝えたいことが書ける力を身につける。
- 英語の学習を通し、様々な国の文化や習慣、考え方を知り、自国の文化の良さを発見する。

☆評価の内容

評価の観点	内 容	評価の場面・方法
① 知識・技能	・外国語の4技能(聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと)について、実際のコミュニケーションで活用できる知識や技能を身につけている。 ・学習を通じて、言語の働きや役割などを理解している。	・授業中の態度や活動の様子 ・ペアワークやグループワーク等の様子 ・単語、文法等授業中の課題 ・定期テスト、小テスト ・リスニング、長文読解等課題 ・パフォーマンステスト
② 思考・判断・表現	・具体的で身近な話題について、互いの考えや気持ちなどを適切に伝え合うことができる。 ・聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えを話したり書いたりして表現できる。	・授業中の態度や活動の様子 ・ペアワークやグループワーク等の様子 ・定期テスト ・パフォーマンステスト
③ 主体的に学習に取り組む態度	・他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。 ・言語やその背景にある文化に対する関心を持って、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	・授業中の態度や活動の様子 ・ペアワークやグループワーク等の様子 ・パフォーマンステスト ・ワーク、ノート、プリント等提出物

☆学習を進めるにあたって

教材	教科書 : NEW HORIZON (東京書籍) 副教材 : ワーク、ノート	持ち物	・教科書・ノート・ファイル・ワーク
学習の進め方	《学校では》 ○英語は伝えようとするのが大切です。間違いを恐れず積極的に授業に取り組もう。 ○授業で習ったことを振り返りシートなどにわかりやすくまとめよう。 《家庭では》 ○教科書に出てくる新しい英単語などを予習しよう。 ○学校で学習したことをワークを使って復習しよう。 ○英語は繰り返し学習が大切です。単語や文法などは、書くこと・読むこと・聞くことを大切に繰り返し練習しよう。教科書のリスニング・音読は本文を暗記するつもりで定期的に行おう。 《定期テストでは》 ○試験範囲中の単語や本文は、何度も繰り返し書いて覚えよう。ワークは何度も解きなおそう。		
学習上の注意	○先生や友達の話をよく聞き、発音練習は正しい発音を意識する。 ○出された家庭学習にしっかり取り組み、提出期限を守る。 ○ペアワークやグループワークには積極的に参加し、協力して学習を行う。 ○音読は、外国語学習にとっても効果が高いと言われているため英語を話すときは、しっかりと声を出すように心がける。		

☆年間計画

時期	単元名	おもな学習内容	評価観点
1 学期	4月	<Unit0> ・動詞の過去形 ・過去進行形 ・There is/are...	知 過去形や過去進行形を用いた文、There is/are...の文の形・意味・用法を理解し、コミュニケーションを行う技能を身につけている。 思 自分のことについて、簡単な語句や文を用いて書いたり話したりしている。 態 自分のことについて、書いたり話したりしようとしている。
	5月	<Unit1> ・Let's Talk1 ・Grammar for Communication1 ・Learning HOME ECONOMICS in English ・Let's Listen1	知 be going to, 助動詞 will, SVOO, SVOC, 苦情や謝罪の表現を用いた文の形・意味・用法を理解し、コミュニケーションを行う技能を身につけている。 思 簡単な語句や文を用いて、自分の予定を伝えたり、即興で尋ねたり答えたりしている。 態 自分のことについて、相手が理解しやすいように伝えようとしている。
	6月	<Unit2> ・接続詞 when ・接続詞 if ・接続詞 because ・接続詞 that	知 接続詞 when, if, because, that を用いた文の形・意味・用法を理解し、コミュニケーションを行う技能を身につけている。 思 上記の接続詞を使って、時や条件、自分の考えなどを伝えたりしている。 態 上記の接続詞を使って、即興でコミュニケーションを行おうとしている。
	7月	・Grammar for Communication2 ・Let's Talk2 ・Let's Listen2 ・学び方コーナー①	知 許可を求める表現、依頼する表現、接続詞を用いた文の形・意味・用法を理解し、コミュニケーションを行う技能を身につけている。 思 許可を求める表現、依頼する表現、接続詞を使って、場面に応じたコミュニケーションを行っている。 態 許可を求める表現、依頼する表現、接続詞を使って、場面に応じたコミュニケーションを行おうとしている。
2 学期	9月	<Unit3> ・Let's Write1 ・Grammar for Communication3 ・Learning TECHNOLOGY in English ・Stage Activity1 ・Let's Read1 ・Let's Listen3	知 不定詞(副詞的用法・名詞的用法・形容詞的用法)、It is ...+to を用いた文の形・意味・用法を理解し、コミュニケーションを行う技能を身につけている。 思 不定詞、It is ...+to を使って、即興で尋ねたり答えたり、文章の概要を捉えたりしている。 態 不定詞、It is ...+to を使って、即興でコミュニケーションを行おうとしたり、文章の概要を捉えようとしたりしている。
	10月	<Unit4> ・Let's Write2 ・Grammar for Communication4 ・学び方コーナー② ・Let's Listen4	知 have to, do not have to, 助動詞 must, must not, 動名詞を用いた文の形・意味・用法を理解し、コミュニケーションを行う技能を身につけている。 思 上記の助動詞や動名詞などを使って、自分のことについて話したり、書いたりしている。 態 上記の助動詞や動名詞などを使って、自分のことについて話そうとしたり、書いたりしようとしている。
	11月	<Unit5> ・Let's Talk3 ・Let's Listen5	知 疑問詞+to, 主語+be 動詞+形容詞+that を用いた文の形・意味・用法を理解し、コミュニケーションを行う技能を身につけている。 思 疑問詞+to, 主語+be 動詞+形容詞+that を使って、文を書いたり、自分の考えや思いを伝えたりしている。 態 疑問詞+to, 主語+be 動詞+形容詞+that を使って、文を書こうとしたり、自分の考えや思いを伝えようとしたりしている。
	12月	・Let's Talk3 ・Let's Listen5	知 乗り物での行き方を尋ねる表現、電話対応の表現を用いた文の形・意味・用法を理解し、コミュニケーションを行う技能を身につけている。 思 乗り物での行き方や電話対応の表現を使って、場面に応じたコミュニケーションを行っている。 態 乗り物での行き方や電話対応の表現を使って、場面に応じたコミュニケーションを行おうとしている。
	1月	<Unit6> ・Let's Talk4 ・Grammar for Communication5 ・Stage Activity2	知 比較級、最上級、同格を用いた文の形・意味・用法を理解し、コミュニケーションを行う技能を身につけている。 思 比較級、最上級、同格を使って、情報を捉えたり、その情報を元に自分の考えを伝えたり、質問したり答えたりしている。 態 比較級、最上級、同格を使って、情報を捉えようとしたり、その情報を元

3 学 期		・学び方コーナー③ ・Let's Read2 ・Let's Listen6		に自分の考えを伝えようしたり、質問したり答えたりしようとしている。
	2 月	<Unit7>	・受け身	知 受け身を用いた文の形・意味・用法を理解し、コミュニケーションを行う技能を身につけている。 思 受け身を使って、文章の概要を理解したり、即興で質問したり答えたりしている。 態 受け身を使って、文章の概要を捉えようしたり、即興でコミュニケーションを行おうたりしている。
	3 月	・Let's talk5 ・Grammar for Communication6 ・Let's Listen7 ・Stage Activity3 ・Let's Read3	・自分の好みや要望を伝える表現 ・総復習	知 自分の好みや要望を伝える表現を用いた文の形・意味・用法を理解し、既習事項と合わせてコミュニケーションを行う技能を身につけている。 思 自分の好みを伝える表現や既習事項を使って、自分の考えや思いを伝えたり、質問したり答えたりしている。 態 自分の好みを伝える表現や既習事項を使って、自分の考えや思いを伝えようしたり、質問したり答えたりしようとしている。

特別の教科道徳について

◎「道徳」とは、

自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことが道徳科の目標です。道徳性とは、内面的な資質で、心情・判断力・実践意欲のことです。

- 自分自身に関すること
- 人との関わりに関すること
- 集団や社会との関わりに関すること
- 生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

に示された価値観を育てます。

道徳で考えることの答えは1つではありません。自分の価値観と周りの価値観が一緒になることが目的ではなく、自分の考えを大切にし、周りの考えを受け入れ、それを踏まえてもう一度自分の価値観をつくっていくことが必要となってきます。

◎具体的には次の方法で道徳性を養います。

自己を見つめる

様々な道徳的価値について、自分との関わりも含めて理解していきます。自分自身が、人間としてよりよく生きていく上で、道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題に気づき、自己や社会の未来に夢や希望が持てるようにすることも大切にします。

物事を広い視野で、さまざまな角度から考える

グローバル化が進んでいるので、様々な文化や価値観を背景とする人達と、ともに尊重しあいながら生きることが必要になっています。また、科学技術の発達などで、社会が変化をする中、様々な状況に対応する力も必要となってきます。これらの背景を踏まえて、人としての生き方や社会の在り方について多面的・多角的に考えていきます。

人間としての生き方についての考えを深める

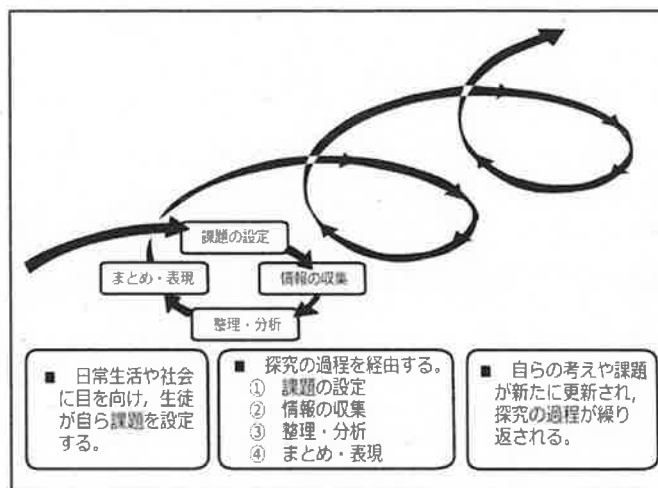
他者や社会、周囲の世界の中で影響を受けつつ、自分を深く見つめ、あるべき自分の姿を描きながら生きていかなければなりません。そのため、自己のことを深く見つめて考えを深めていきます。

総合的な学習の時間について

◎「総合的な学習の時間」とは、

自分たちで課題を見つけ、調べたことや学習したことを発表しながら、自分の考えや思いを伝えていく学習です。自分を見つめ、学習を進めていくことによって、なかまと協力して、社会生活を送っていく力、問題解決の力を養い、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育てていくことをめざしていきます。

探究的な学習における生徒の学習の姿



◎具体的には次のような力を養います。

探究する力 《なかまや自分を見つめようとする力》

課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、探究的な学習のよさを理解したり、目標を達成させる喜びを学んだりします。

表現する力 《自分の思いを伝えようとする力》

実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することを学びます。

行動する力 《課題をみつけ、解決に向け具体的な行動ができる力》

探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う活動を通して、自分の課題をみつけ、その課題の解決に向けて何をしなければならないかを考えて行動につなげ、自分の生き方を考えます。

◎3年間の総合的な学習の時間で大切にしたいこと

★出会いの中で夢を育てること

★さまざまな体験から生き方を考えること

★自ら選択する力を伸ばし夢実現のための進路選択をすること

☆各教科の家庭学習の仕方をご紹介します。

日頃取り組んでほしいことを参考にして、家庭学習に取り組みましょう。

国語科

○日常生活の中で、積極的に活字に触れよう。

書籍(本)・新聞・詩集・雑誌・マンガ・辞典・資料集・写真集・パンフレット等を
読もう。

○自分の好きな本や読みたい本を見つけることにワクワクしよう。

読み取る力 up

- ・教科書の文を音読しよう。
- ・5W1H【いつ・どこで・だれ(何)が・だれ(何)を・どのように・どうした】を
考えて読もう。
- ・場面や段落を考えて読もう。

話す力・聞く力 up

- ・いろいろな人と会話をしよう。
- ・日々の出来事や思ったことや感じたことを文章で表現し、伝えよう。
→友達や家族などと話すとき。
- ・会話の時に、聞いた内容について質問してみよう。

書く力 up

(すてきな文章から学ぶ。)

- ・名文とされる文章や新聞コラムなどを書き写す。100字程度から増やしていく。
(自分の書きたいことから広げる。)
- ・日記を書く。→日々の出来事や思ったことや感じたことを文章で表現しよう。
↓ 行日記から3行日記と書く量を増やしていく。

語彙力 up

- ・クロスワードパズルをする。
- ・漢字や語句を覚える。何度も言って書いて覚える。
- ・わからない言葉(漢字や語句)は、こまめに国語辞典や漢和辞典で調べる。
- ・覚えた言葉は試しに使ってみる。(短文作り・会話など)

社会科

○学校で学習した範囲の教科書を読む。重要語句に赤ペンでラインを引き、覚える。

○意味がわからない語句は自分で調べる。

○授業中に配布した問題プリント等を繰り返す。

○毎日、新聞の一面を読み、テレビのニュースを見るようにして、世の中の動きや出来事に関心
を持つ。

○テレビを見ていて、知らない地名が出てきたら地図帳で調べる。

数学科

- 宿題をする。
 - 授業で解いた問題や類題をノートにやってみる。
 - ワークなどで、確認をする。
- ※家庭学習で出た悩みや質問は次の日に先生に聞きに行きましょう。

理科

- ワークを使って習ったことを、こまめに復習する(ワークをする曜日を決めると良い)。
- 「教科書の太字の用語を書き出して説明文を書き加える」、「授業内容を自分なりにまとめる」など、工夫してノートをつくる。
- 自然科学についてのテレビ番組を見る(NHKが多いですが、それ以外にも、面白いものがたくさんあります)。
- 特にテスト前には、ワークを何度も繰り返し解く。
- 分からない所は、付箋などをはってチェックし、自分で調べるか先生に質問する。
- 学校でもらうプリントにもしっかり取り組む。答え合わせは、丸付けをする作業ではなく、間違えた問題の解説まで読むところまでする。

音楽科

- いろいろなジャンルの音楽に親しもう
ポップス、ジャズ、クラシックなど、音楽には多くのジャンルがあります。
たくさん聴いて、自分のお気に入りを見つけましょう。
- 音楽に触れる機会をつくろう
音楽に関心を持ち、積極的に演奏会に行ってみましょう。生の音楽鑑賞は、CDやテレビなどとはまた違った良さを味わえることもあります。
- 日常を楽しもう
日常生活は音で溢れています。少し足を止めて心を落ち着かせ、日常の音を楽しむゆとりを持つようにしましょう。

美術科

○身の回りにあるものに関心を持つことから始めよう。(観察しよう。)

身の回りにあるいろいろなものや、出来事に目を向け関心や興味を持ち、見たり、感じたり、体感したりすることから始めよう。(体験すること、経験したこと大切にする。)

○感性を磨くこと。

美しい夕焼けや道端の名もなき花の美しさに心を止めることのできる心のゆとりを持とう。

美しものを美しいと感じられるということを大切にしよう。

○自然・芸術・美術に親しもう。(鑑賞しよう。)

自然・美術・芸術に関心を持ち、美しい花や景色、屋外彫刻や建築に関心を持ち、美術館、博物館、歴史館等へ足を運び、本物の芸術にふれる機会を作ろう。

○メモやスケッチをしよう。(メモ用紙、スケッチ帳を持とう。)記録を残そう。

頭に浮かんだ発想をメモしたり、スケッチに残したり、美しい風景や花をスケッチする習慣を作ろう。

○制作してみよう。

趣味の中に、絵を描いたり、彫刻を作ったり、デザインやイラストを描くことによって、自己表現にチャレンジしていこう。

○調べてみよう。(深める。)

わからないこと、興味を持ったこと、関心のあること、もっと知りたいことについて、とことん調べてみよう。

○根気強く続けよう。

どんなことでも、やり始めたら最後まで完成させよう。「継続は、力なり」です。力をつけるには、何よりも努力を続けていくことです。

身の回りにあるいろいろなものや、出来事に目を向け関心や興味を持ち、見たり、感じたり、体感したりすることから始めよう。(体験すること、経験したこと大切にする。)

保健体育科

○健康に気をつけ、規則正しい生活を送る。

○健康に過ごしていくための基礎体力を身につける。

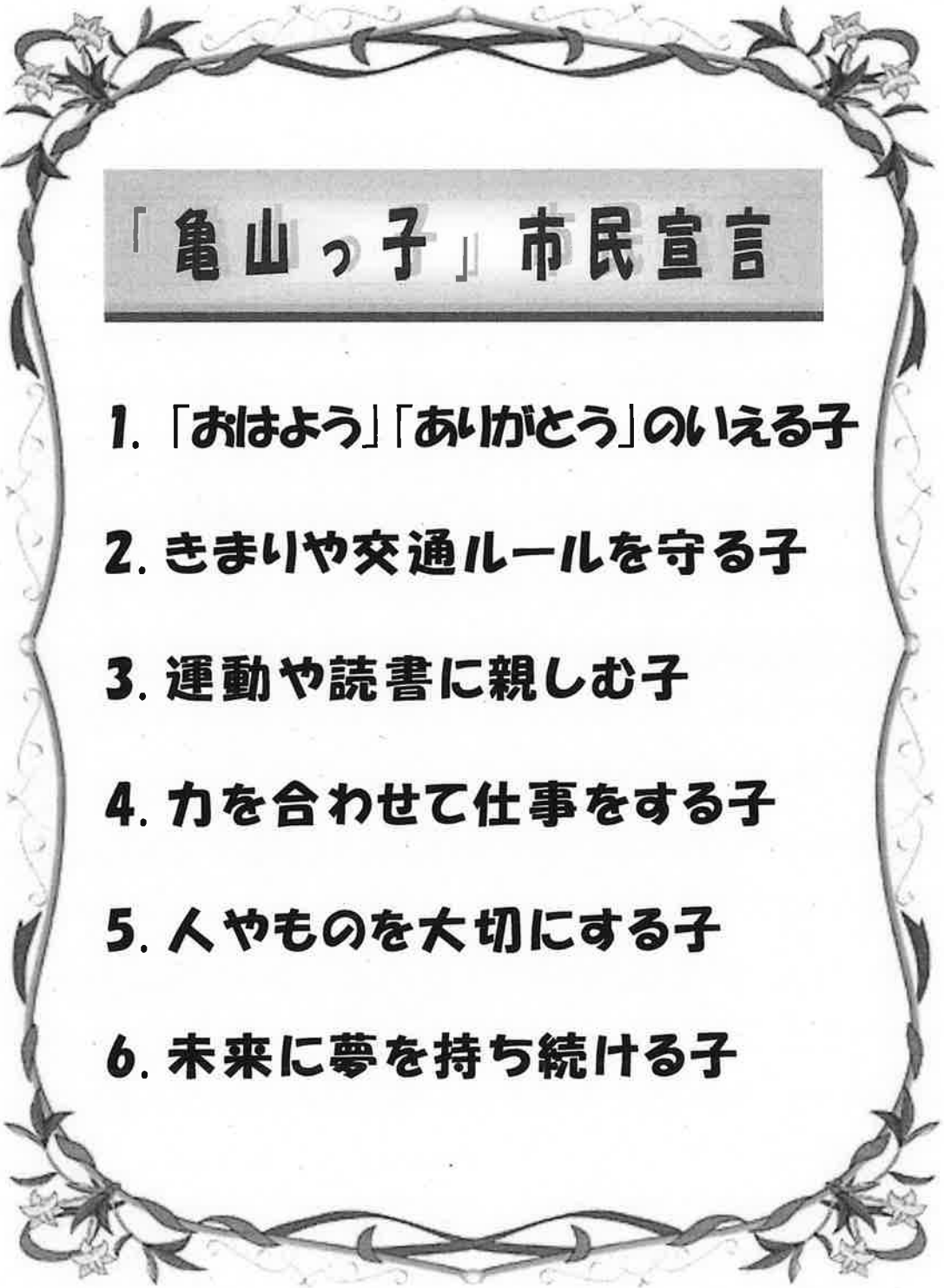
○様々なメディアなどで運動・スポーツに関する情報をたくさん得る。

技術家庭科

- 朝ごはんやお弁当、夕飯作りの手伝い、取れたボタンを付け直す、ほつれたスカートのスソを直す、洗濯してみる。
- 買い物に行ったときなど、様々な表示や新しい商品などに目を向けてみよう。
- パソコンやインターネットを安全に扱い、生活に活かしてみる。望ましい情報社会のために私たちがとるべき態度を身につけ、適切に情報を活用する。
- 木材加工や電気の技能を活かし、修理してものを使うなど、資源や環境を考えて大切に使う習慣を身につける。
- 積極的に地域の人や家族、小さい子どもに関わろう。
- 家庭科は生活の中で即実践できる教科です。まずは、やってみよう。できたら、工夫してみよう
- 世の中の新しい技術や開発された機器などに関心を持とう！
新聞を読んだり、ニュースを見たり、自分たちの生活に関わることを知ろう。

英語科

- 教科書の本文を読む。
→音読することで基本的な文の構造や、リスニング力が身につきます。
- 与えられた課題を家庭で取り組み、提出期限を守る。
- 単語テストや小テスト、定期テストの振り返りをする。間違えたところを繰り返し学習する。
- 単語を正確に覚える。→何度も書いて覚える。
- 音読の仕方(英語を見て読む、日本語を見て英語にして読む)
- 単語を書くときは声に出して単語を何度も書く。



「亀山っ子」市民宣言

- 1. 「おはよう」「あいがとう」のいえる子**
- 2. きまりや交通ルールを守る子**
- 3. 運動や読書に親しむ子**
- 4. 力を合わせて仕事をする子**
- 5. 人やものを大切にする子**
- 6. 未来に夢を持ち続ける子**